

# 鳥取県がん検診実績報告書

平成18年3月

鳥 取 県  
鳥取県健康対策協議会

# 目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 平成16年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	3
2. 子宮がん検診	15
3. 肺がん検診	23
4. 乳がん検診	36
5. 大腸がん検診	43
6. 肝臓がん検診	54
7. 全国がん検診実績との比較	69
III. 平成17年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告	74
2. 子宮がん検診症例研究会報告	76
3. 肺がん検診症例研究会報告	78
4. 乳がん検診症例研究会報告	80
5. 大腸がん検診症例研究会報告	82
6. 肝臓がん検診症例研究会報告	84
7. 各地区がん検診症例検討会開催状況	87
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	88



## Ⅱ. 平成16年度各がん検診事業実績

# 1. 胃 が ん 検 診

## 1. 胃がん検診実績

対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数）は対象者数167,900人のうち、受診者数はX線検査28,963人、平成12年度より導入した内視鏡検査は17,666人で合計46,629人で、受診率は27.8%であった。前年度より対象者数4,041人、受診者数は1,417人減少したが、受診率は前年度並みであった。年々と内視鏡検査の実施割合が増加している。全国平均受診率が約13%台に比べ、鳥取県は非常に良い成績であるが、鳥取県の目標値は35%としており、今後も受診勧奨に努めていきたい。

検査の結果、胃がんまたは胃がん疑いであった者は163人発見され（X線検査58人、内視鏡検査105人）、がん発見率は0.35%で前年度より25人、0.04ポイント減少した。

平成12年度から導入した内視鏡検査も5年間経過し、新規受診者の割合が減少し、発見癌数の伸び率が鈍化傾向となるが、X線検査でのがん発見率は0.20%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.59%で約3倍も高い。

確定調査の結果、確定癌は137例、発見癌率は0.294%であった。

- (1) X線検査は20市町村で実施され、受診者数は28,963人で、受診率は17.3%で年々減少傾向である。一次検診の要精検者は3,104人、要精検率は10.7%。このうち、精密検査を受診したのは2,372人、精検受診率は76.4%で、前年度より330人、2.3ポイント減少した。車検診においては、各地区の要精検率に格差はなくなったが、施設検診においては東部14.7%、中部30.1%、西部12.4%で中部が非常に高い。また、一次検診機関別の要精検率を比較すると、依然として病院が19.9%と高い結果であった。

精検結果は、胃がんまたは胃がん疑いであった者は58人、胃がん発見率は0.20%であった。

- (2) 内視鏡検査は、15市町村で実施され、受診者数は17,666人で、検査結果は胃がんまたは胃がん疑いであった者は105人が発見され、発見率は0.59%であった。

## 2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

平成16年度に発見された胃がん及び胃がん疑いについて確定調査を行った結果、確定胃がんは138例（一次検査がX線検査：車検診30例（職域検診1例含む）、施設検診21例、一次検査内視鏡検査：87例）であった。

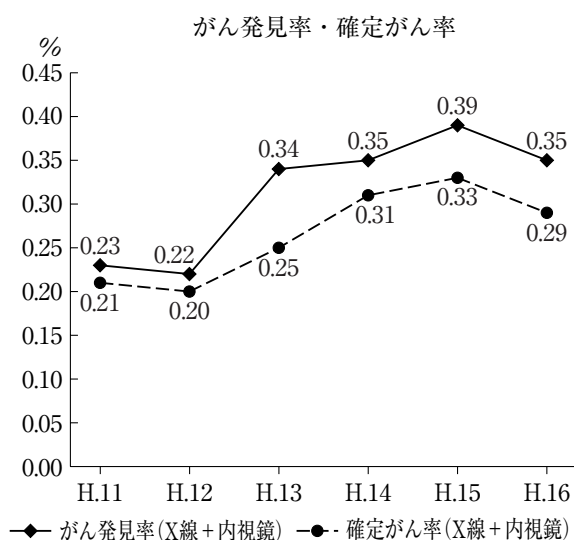
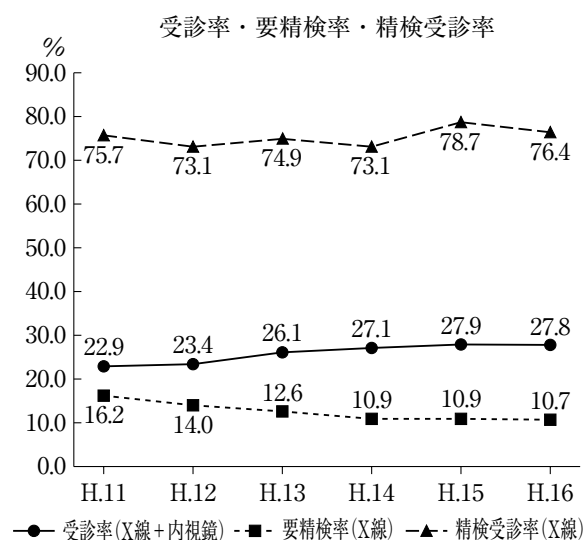
- (1) 早期癌は90例、進行癌は48例であった。早期癌率は65.2%で、東部67.2%、中部75.0%、西部61.8%であった。前年度に比べ少し低くなったのは、内視鏡検診は、初回受診者が多いので、進行癌が多く見つかっているためである。ここ何年間はこの傾向が続くと思われる。
- (2) 切除例は125例で、そのうち内視鏡切除は19例であった。これは全国に比べ、やや低率であった。手術拒否2例、手術不能が9例で今年は少し多かった。
- (3) 性・年齢別では、男性87例、女性51例であった。男女とも70～79歳から癌が多く見つかっており、全体の半数を占めている。40歳代でがんが3例見つかっているが、内視鏡検査で発見されている。
- (4) 早期癌では「Ⅱc」が63.3%で大半を占めている。平坦型のⅡbが6例あり、内視鏡検査の特徴が出ている。進行癌では「2」、「3」で62.5%を占め、「5」も25.0%と多かった。
- (5) 切除例の深達度では「t1」が90例で、そのうちmが52例であった。報告が不明なところがあり、mがもっと多いのではと思われる。

- (6) 切除例の大きさは2 cm以内が31.4%であった。車検診では28.6%、施設検診では18.8%、内視鏡検査では35.1%であった。内視鏡切除の症例で大きさの未記入が多かった。
- (7) 前年度受診歴を有する進行癌は、車検診で6例、施設検診で4例、内視鏡検査で10例であった。前年度の検診結果を調査した結果、内視鏡検査を受けたものが東部2例、西部5例もあり、再検査だったが未実施、精検不要、判定不能等の結果となっている。
- (8) 平成15年度検診の前年度受診歴を有する進行癌についても報告があった。車検診で3例、施設検診で4例、内視鏡検査で5例であった。前年度に内視鏡検査を行って異常なしだったものが3例あった。写真が悪くて、見えていないのか、病変をとらえていないのではとの疑問が残る。  
内視鏡検査の精度を検討していかなければならないと思われる。  
各地区において、症例検討会等で再度検討して頂くこととなった。

(1) 胃がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		平成11年度	平成12年度			平成13年度		
			X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人)	174,021			172,825			167,336
	受診者数(人)	39,783	36,706	3,651	40,357	33,904	9,732	43,636
	受診率(%)	22.9	21.2	2.1	23.4	20.3	5.8	26.1
一次検診結果	異常認めず(人)	33,319	31,556			29,618		
	要精検者数(人)	6,464	5,150			4,286		
	要精検率(%)	16.2	14.0			12.6		
精密検査	精検受診者数(人)	4,894	3,766			3,212		
	精検受診率(%)	75.7	73.1			74.9		
精密検査結果	胃がんの者又は胃がんの疑いのある者(人)	90	64	23	87	75	73	148
	胃がん発見率(%)	0.23	0.17	0.63	0.22	0.22	0.75	0.34
確定調査結果	確定がん数(人)	82			79			109
	確定がん率(%)	0.21			0.20			0.25

区 分		平成14年度			平成15年度			平成16年度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人)			169,754			171,941			167,900
	受診者数(人)	32,738	13,295	46,033	31,587	16,459	48,046	28,963	17,666	46,629
	受診率(%)	19.3	7.8	27.1	18.4	9.6	27.9	17.3	10.5	27.8
一次検診結果	異常認めず(人)	29,175			28,153			25,859		
	要精検者数(人)	3,563			3,434			3,104		
	要精検率(%)	10.9			10.9			10.7		
精密検査	精検受診者数(人)	2,604			2,702			2,372		
	精検受診率(%)	73.1			78.7			76.4		
精密検査結果	胃がんの者又は胃がんの疑いのある者(人)	51	110	161	74	114	188	58	105	163
	胃がん発見率(%)	0.16	0.83	0.35	0.23	0.69	0.39	0.20	0.59	0.35
確定調査結果	確定がん数(人)			142			158			137
	確定がん率(%)			0.31			0.33			0.29



## (2) 平成16年度胃がんX線検診結果

### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数(人)		一次検診受診者数(人)		受診率 (%)		一次検診結果				要精検率 (%)	
							要精検者数		異常認めず			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	3,907	6,408	360	765	9.2	11.9	42	56	318	709	11.7	7.3
45～49歳	4,919	7,278	479	1,038	9.7	14.3	58	79	421	959	12.1	7.6
50～54歳	6,648	9,803	686	1,594	10.3	16.3	81	120	605	1,474	11.8	7.5
55～59歳	7,178	10,334	961	2,220	13.4	21.5	119	180	842	2,040	12.4	8.1
60～64歳	9,110	12,577	1,475	2,864	16.2	22.8	207	261	1,268	2,603	14.0	9.1
65～69歳	10,155	13,905	1,936	3,295	19.1	23.7	234	334	1,702	2,961	12.1	10.1
70～74歳	10,013	14,054	2,093	3,336	20.9	23.7	272	310	1,821	3,026	13.0	9.3
75～79歳	7,425	12,087	1,531	2,311	20.6	19.1	234	235	1,297	2,076	15.3	10.2
80歳以上	6,513	15,586	895	1,124	13.7	7.2	137	145	758	979	15.3	12.9
計	65,868	102,032	10,416	18,547	15.8	18.2	1,384	1,720	9,032	16,827	13.3	9.3
合計	167,900		28,963		17.3		3,104		25,859		10.7	

### 2) X線検診精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数(人)		精密検査受診率 (%)		精密検査結果								胃がん発見率 (%)	
					異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	26	46	61.9	82.1	12	15	14	31	0	0	0	0	0.000	0.000
45～49歳	33	60	56.9	75.9	9	27	23	32	0	0	1	1	0.209	0.096
50～54歳	46	92	56.8	76.7	9	31	35	61	1	0	1	0	0.292	0.000
55～59歳	79	138	66.4	76.7	21	48	52	89	2	0	4	1	0.624	0.045
60～64歳	142	227	68.6	87.0	41	67	98	158	0	0	3	2	0.203	0.070
65～69歳	180	271	76.9	81.1	35	92	142	176	1	0	2	3	0.155	0.091
70～74歳	191	254	70.2	81.9	63	78	123	171	0	0	5	5	0.239	0.150
75～79歳	184	186	78.6	79.1	47	51	128	131	0	0	9	4	0.588	0.173
80歳以上	111	106	81.0	73.1	29	29	76	70	2	1	4	6	0.670	0.623
計	992	1,380	71.7	80.2	266	438	691	919	6	1	29	22	0.336	0.124
合計	2,372		76.4		704		1,610		7		51		0.200	

### 3) 検査機関別

#### a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数(人)		一次検診結果				要精検率 (%)	
			要精検者数		異常認めず			
	男	女	男	女	男	女	男	女
保健事業団	6,676	11,739	740	899	5,936	10,840	11.1	7.7
中国労働衛生協会	239	258	29	18	210	240	12.1	7.0
病院	1,048	2,024	275	335	773	1,689	26.2	16.6
診療所	2,453	4,526	340	468	2,113	4,058	13.9	10.3
計	10,416	18,547	1,384	1,720	9,032	16,827	13.3	9.3
合計	28,963		3,104		25,859		10.7	

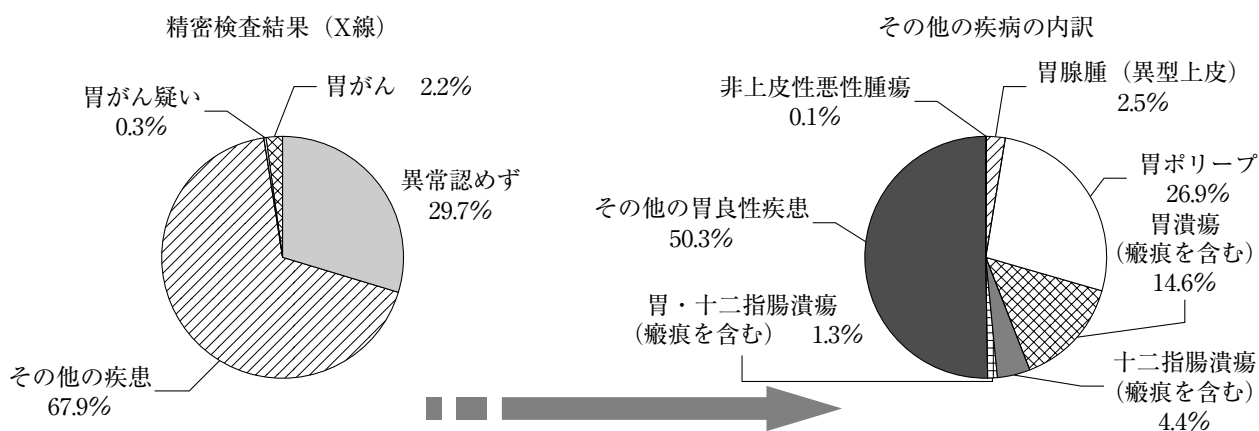


b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人)		精密検査受診率(%)		精密検査結果								胃がん発見率(%)	
	男	女	男	女	異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん		男	女
					男	女	男	女	男	女	男	女		
保健事業団	583	759	78.8	84.4	160	253	398	495	5	0	20	11	0.374	0.094
中国労働衛生協会	22	16	75.9	88.9	8	7	14	9	0	0	0	0	0.000	0.000
<b>集団検診小計</b>	<b>605</b>	<b>775</b>	<b>78.7</b>	<b>84.5</b>	<b>168</b>	<b>260</b>	<b>412</b>	<b>504</b>	<b>5</b>	<b>0</b>	<b>20</b>	<b>11</b>	<b>0.362</b>	<b>0.092</b>
病院	157	245	57.1	73.1	50	84	107	158	0	0	0	3	0.000	0.148
診療所	230	360	67.6	76.9	48	94	172	257	1	1	9	8	0.408	0.199
<b>医療機関検診小計</b>	<b>387</b>	<b>605</b>	<b>62.9</b>	<b>75.3</b>	<b>98</b>	<b>178</b>	<b>279</b>	<b>415</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>9</b>	<b>11</b>	<b>0.286</b>	<b>0.183</b>
計	992	1,380	71.7	80.2	266	438	691	919	6	1	29	22	0.336	0.124
合計	2,372		76.4		704		1,610		7		51		0.200	

検査機関別要精検率 (%)

一次検診機関	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
保健事業団	11.8	10.1	8.7	8.8	8.9
中国労働衛生協会	10.3	11.6	5.9	8.8	9.5
<b>集団検診小計</b>	<b>11.7</b>	<b>10.2</b>	<b>8.6</b>	<b>8.8</b>	<b>8.9</b>
病院	22.3	23.0	19.2	22.4	19.9
診療所	15.2	12.1	12.9	13.5	11.6
<b>医療機関検診小計</b>	<b>17.4</b>	<b>16.8</b>	<b>14.9</b>	<b>14.8</b>	<b>14.1</b>
合計	14.0	12.6	10.9	10.9	10.7



4) 平成16年度鳥取県胃がんX線検診受診状況

市町村名	対象者数 (人)		受診者数			要精検者数			検査結果				がん発見率 (%) Q = (N+O)/D				
	A	B	単検診 施設検診 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D/A	単検診 F	施設検診 G	計 H = F + G	I = H/D (%)	要精検率 (%) J	精検受診 者数	K = J/H (%)		異常 認めず L	その他 の疾病 M	がん 疑い N	がん O
鳥取市	52,403	3,187	5,111	8,298	15.8	225	743	968	11.7	676	69.8	170	496	0	10	506	0.121
米子市	46,126	1,167	3,520	4,687	10.2	119	445	564	12.0	439	77.8	100	325	3	11	339	0.299
倉吉市	14,125	1,582	171	1,753	12.4	169	52	221	12.6	183	82.8	62	116	0	5	121	0.285
境港市	11,905	63	693	756	6.4	8	61	69	9.1	60	87.0	30	27	0	3	30	0.397
岩美町	2,705	802	15	817	30.2	56	4	60	7.3	55	91.7	13	40	0	2	42	0.245
八頭町	5,812	1,868	61	1,929	33.2	157	9	166	8.6	142	85.5	28	111	0	3	114	0.156
若桜町	882	442	0	442	50.1	41	0	41	9.3	35	85.4	8	25	0	2	27	0.452
智頭町	2,829	675	224	899	31.8	36	38	74	8.2	58	78.4	25	31	0	2	33	0.222
湯梨浜町	3,179	1,045	77	1,122	35.3	106	26	132	11.8	105	79.5	32	70	1	2	73	0.267
三朝町	1,359	601	0	601	44.2	40	0	40	6.7	34	85.0	4	29	1	0	30	0.166
北条町	1,866	360	30	390	20.9	35	6	41	10.5	29	70.7	8	18	0	3	21	0.769
大栄町	1,859	764	0	764	41.1	65	0	65	8.5	59	90.8	25	33	1	0	34	0.131
琴浦町	7,120	1,914	8	1,922	27.0	214	2	216	11.2	161	74.5	72	87	0	2	89	0.104
南部町	1,754	515	70	585	33.4	56	5	61	10.4	36	59.0	12	23	0	1	24	0.171
伯耆町	3,281	1,042	0	1,042	31.8	100	0	100	9.6	66	66.0	32	32	0	2	34	0.192
日吉津村	451	184	0	184	40.8	4	0	4	2.2	3	75.0	0	3	0	0	3	0.000
大山町	5,349	1,307	0	1,307	24.4	140	0	140	10.7	121	86.4	44	73	1	3	77	0.306
日南町	2,412	649	63	712	29.5	52	22	74	10.4	53	71.6	18	35	0	0	35	0.000
日野町	1,385	361	8	369	26.6	36	5	41	11.1	34	82.9	10	24	0	0	24	0.000
江府町	1,098	384	0	384	35.0	27	0	27	7.0	23	85.2	11	12	0	0	12	0.000
合計	167,900	18,912	10,051	28,963	17.3	1,686	1,418	3,104	10.7	2,372	76.4	704	1,610	7	51	1,668	0.200
東部	64,631	6,974	5,411	12,385	19.2	515	794	1,309	10.6	966	73.8	244	703	0	19	722	0.153
中部	29,508	6,266	286	6,552	22.2	629	86	715	10.9	571	79.9	203	353	3	12	368	0.229
西部	73,761	5,672	4,354	10,026	13.6	542	538	1,080	10.8	835	77.3	257	554	4	20	578	0.239

### (3) 平成16年度胃がん内視鏡検診結果

#### 1) 年齢階級別

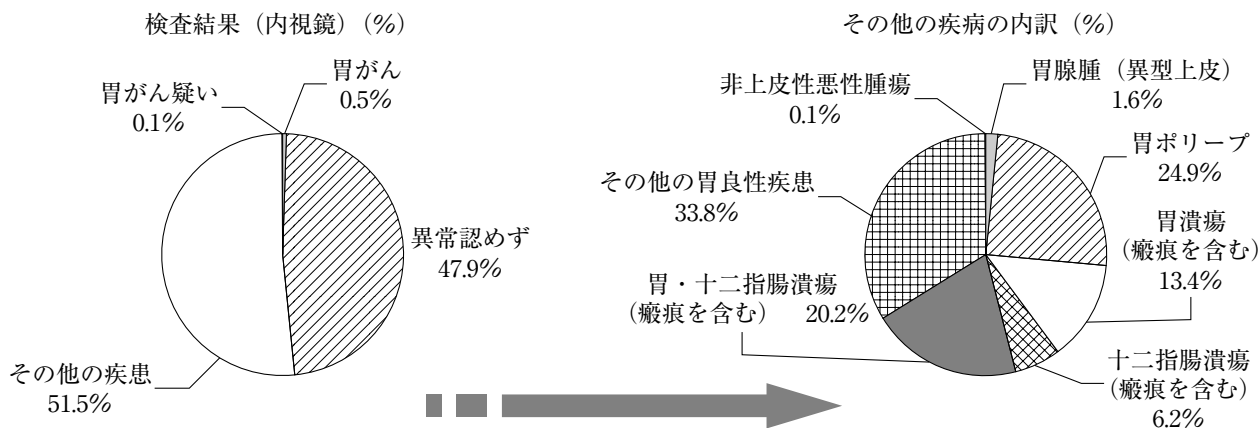
年 齢	一次検診 受診者数 (人)		精 密 検 査 結 果								胃がん発見率 (%)	
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	143	357	61	194	81	163	0	0	1	0	0.699	0.000
45～49歳	166	347	87	170	79	177	0	0	0	0	0.000	0.000
50～54歳	303	569	134	283	166	285	0	0	3	1	0.990	0.176
55～59歳	488	1,072	206	522	280	549	1	0	1	1	0.410	0.093
60～64歳	867	1,570	381	812	480	750	1	0	5	8	0.692	0.510
65～69歳	1,296	1,980	565	1,021	721	955	1	0	9	4	0.772	0.202
70～74歳	1,515	2,168	668	1,072	829	1,087	0	2	18	7	1.188	0.415
75～79歳	1,223	1,657	568	815	639	837	6	1	10	4	1.308	0.302
80歳以上	747	1,198	325	579	410	610	3	5	9	4	1.606	0.751
計	6,748	10,918	2,995	5,468	3,685	5,413	12	8	56	29	1.008	0.339
合 計	17,666		8,463		9,098		20		85		0.594	

#### 2) 検診機関別

検診機関	一次検診 受診者数 (人)		精 密 検 査 結 果								胃がん発見率 (%)	
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
病 院	2,095	2,817	782	1,221	1,298	1,590	4	2	11	4	0.716	0.213
診 療 所	4,653	8,101	2,213	4,247	2,387	3,823	8	6	45	25	1.139	0.383
計	6,748	10,918	2,995	5,468	3,685	5,413	12	8	56	29	1.008	0.339
合 計	17,666		8,463		9,098		20		85		0.594	

3) 平成16年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	検査結果別人員						がん発見率 (%) $G = (D + E) / A$
	受診者数 (人) A	異常認めず B	その他の 疾 病 C	が ん 疑 い D	が ん E	異常者総計 F = C + D + E	
鳥取市	6,778	2,405	4,327	8	38	4,373	0.679
米子市	7,027	3,727	3,262	7	31	3,300	0.541
倉吉市	500	234	265	0	1	266	0.200
境港市	1,552	957	585	2	8	595	0.644
岩美町	249	115	134	0	0	134	0.000
八頭町	63	13	50	0	0	50	0.000
若桜町							—
智頭町	147	70	74	2	1	77	2.041
湯梨浜町	211	43	168	0	0	168	0.000
三朝町							—
北条町	180	159	21	0	0	21	0.000
大栄町							—
琴浦町	23	7	16	0	0	16	0.000
南部町	544	410	132	1	1	134	0.368
伯耆町	136	131	4	0	1	5	0.735
日吉津村							—
大山町							—
日南町	36	29	7	0	0	7	0.000
日野町	95	73	21	0	1	22	1.053
江府町	125	90	32	0	3	35	2.400
合 計	17,666	8,463	9,098	20	85	9,203	0.594
東 部	7,237	2,603	4,585	10	39	4,634	0.677
中 部	914	443	470	0	1	471	0.109
西 部	9,515	5,417	4,043	10	45	4,098	0.578



(4) 平成16年度胃がん検診受診状況（X線十内視鏡）

市町村名	対象者数 (人) A	受診者数				X線精密検査結果及内視鏡検査結果別人員					
		X線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	異常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	異常者 総計 J=G+H+I	がん発見率 (%) K=(H+I)/D
鳥取市	52,403	8,298	6,778	15,076	28.8	2,575	4,823	8	48	4,879	0.371
米子市	46,126	4,687	7,027	11,714	25.4	3,827	3,587	10	42	3,639	0.444
倉吉市	14,125	1,753	500	2,253	16.0	296	381	0	6	387	0.266
境港市	11,905	756	1,552	2,308	19.4	987	612	2	11	625	0.563
岩美町	2,705	817	249	1,066	39.4	128	174	0	2	176	0.188
八頭町	5,812	1,929	63	1,992	34.3	41	161	0	3	164	0.151
若桜町	882	442	0	442	50.1	8	25	0	2	27	0.452
智頭町	2,829	899	147	1,046	37.0	95	105	2	3	110	0.478
湯梨浜町	3,179	1,122	211	1,333	41.9	75	238	1	2	241	0.225
三朝町	1,359	601	0	601	44.2	4	29	1	0	30	0.166
北条町	1,866	390	180	570	30.5	167	39	0	3	42	0.526
大栄町	1,859	764	0	764	41.1	25	33	1	0	34	0.131
琴浦町	7,120	1,922	23	1,945	27.3	79	103	0	2	105	0.103
南部町	1,754	585	544	1,129	64.4	422	155	1	2	158	0.266
伯耆町	3,281	1,042	136	1,178	35.9	163	36	0	3	39	0.255
日吉津村	451	184	0	184	40.8	0	3	0	0	3	0.000
大山町	5,349	1,307	0	1,307	24.4	44	73	1	3	77	0.306
日南町	2,412	712	36	748	31.0	47	42	0	0	42	0.000
日野町	1,385	369	95	464	33.5	83	45	0	1	46	0.216
江府町	1,098	384	125	509	46.4	101	44	0	3	47	0.589
合計	167,900	28,963	17,666	46,629	27.8	9,167	10,708	27	136	10,871	0.350
東 部	64,631	12,385	7,237	19,622	30.4	2,847	5,288	10	58	5,356	0.347
中 部	29,508	6,552	914	7,466	25.3	646	823	3	13	839	0.214
西 部	73,761	10,026	9,515	19,541	26.5	5,674	4,597	14	65	4,676	0.404

(5) 平成16年度胃がん検診発見胃がん患者確定調査報告

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
確 定 胃 癌 (発 見 率 %)	13 0.186	6 0.111	39 0.539	10 0.16	1 0.35	1 0.109	7 0.123	14 0.322	47 0.494	138 0.296
	58 (0.296)			12 (0.161)			68 (0.348)			
早 期 癌 数 早 期 癌 率 (%)	11	5	23	8	1	0	3	5	34	90 (65.20)
	39 (67.2)			9 (75.0)			42 (61.8)			
進 行 癌	2	1	16	2	0	1	4	9	13	48
切 除 例 内 視 鏡	12	6	36	10	1	1	4	11	44	125
	3	2	6	2	0	0	0	0	6	19
非 切 除 例	1	0	3	0	0	0	3	3	3	13

職域検診1例含む

手術拒否…… 2

手術不能…… 9

そ の 他…… 1

表2 性・年齢別

	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	2	9	21	43	12	87
女	1	4	13	22	11	51

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計 (%)
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
I	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1( 1.1)
II a	2	1	1	1	0	0	0	0	5	10(11.1)
II c	5	2	14	6	1	0	2	4	23	57(63.3)
II c + III	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1( 1.1)
II a + II c	1	2	4	0	0	0	1	1	3	12(13.3)
そ の 他	3	0	3	0	0	0	0	0	3	9(10.0)
計	11	5	23	8	1	0	3	5	34	90

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計 (%)
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1( 2.1)
2	0	0	4	2	0	0	3	2	4	15(31.3)
3	1	1	8	0	0	0	0	2	3	15(31.3)
4	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3( 6.3)
5	0	0	3	0	0	1	1	3	4	12(25.0)
不 明	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2( 4.2)
計	2	1	16	2	0	1	4	9	13	48

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
t1	11	5	23	8	1	0	3	5	34	90
m	3	3	16	4	1	0	2	0	23	52
t2	0	0	6	2	0	1	1	4	10	24
t3	2	1	7	0	0	0	2	3	2	17
t4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
計	13	6	36	10	1	1	7	12	46	132
不 明	0	0	3	0	0	0	0	2	1	6

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計(%)	21 ～ 50	51 ～	計	不 明
車 検 診	1	7	8(28.6)	12	8	28	2
施 設 検 診	0	3	3(20.0)	11	2	16	5
内 視 鏡 検 診	11	15	26(34.7)	34	14	74	13
計	12	25	37(31.4)	57	24	118	20

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	2	2	9
M	12	25	25
L	7	3	20
全 体	0	0	0
計	21	10	54
不 明	1	1	3

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	7	1	23
大 弯	1	3	10
前 壁	5	2	10
後 壁	7	4	10
全 周	1	0	1
計	21	10	54
不 明	1	1	3

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	2	4	4
M	5	3	17
L	1	0	7
全 体	0	1	2
計	8	8	30
不 明	0	2	0

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	3	4	9
大 弯	1	0	5
前 壁	0	0	4
後 壁	2	2	8
全 周	2	2	4
計	8	8	30
不 明	0	2	0

表8 前年度受診歴を有する進行胃癌症例

地区	検 診	歳	性	型	深達度	組織型	大きさ (mm)	占拠部位	前年度検診結果	
									検診方式	一次検診結果
東部	車検診	71	女	4	t3 (se)	por2	90×84	ML 全周	車・X線	異常なし
		62	男	3	t3 (se)	tub1	48×40	M 小弯	車・X線	異常なし
	内視鏡検診	75	男	2	不明	tub2	不明	M 後壁	施設・X線	異常なし
		50	男	4	t3 (se)	por2	170×80	UM 小弯	施設・内視鏡	判定不能 (残胃、過去に手術)
		65	男	5	t3 (se)	por2	40×20	L 小弯	施設・内視鏡	判定不能 (胃潰瘍瘢痕性・胃角部小弯)
		77	女	2	t2 (ss)	tub1	52×50	L 小弯	施設・X線	精検不要 (変形胃)
		79	男	2	t3 (se)	tub2	35×30	M 大弯	施設・X線	精検不要 (変形胃)
中部	車検診	81	女	2	t2 (mp)	tub1	25×20	U 小弯	車・X線	異常なし
西部	車検診	80	女	2	t3 (se)	por1	60×50	U 全周	車・X線	異常なし
		78	男	2	t4 (si)	por1	60×40	L 小弯	車・X線	異常なし
		72	男	2	t2	tub2	80×80	ML 大弯	車・X線	異常なし
	施設検診	73	男	5	t2 (mp)	tub2	35×28	M 小弯	施設・内視鏡	再検査だったが、未実施
		63	女	5	t2 (ss)	sig	25×20	U 後壁	施設・X線	異常なし
		75	男	3	t2 (ss)	tub2	40×33	U 小弯	施設・X線	異常なし
		88	男	不明	不明	不明	不明	不明 不明	施設・X線	異常なし
	内視鏡検診	87	女	5	t2 (mp)	por2	95×47	L 全周	施設・内視鏡	異常なし
		55	男	5	t3 (se)	por2	25×20	U 後壁	施設・X線	異常なし
		68	女	2	t2 (mp)	por1	22×16	M 小弯	施設・内視鏡	精検不要 (瘢痕性胃潰瘍)
76		男	2	t2 (mp)	tub1	35×34	L 前壁大弯	施設・内視鏡	慢性胃炎びらん (+)	
		68	女	5	t2 (mp)	por1	57×38	M 前壁	施設・内視鏡	ポリープ



## 2. 子宮がん検診

### 1. 子宮がん検診実績

平成16年度の対象者数（30歳以上の女性のうち職場等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数）は122,868人で、このうち受診者数は26,333人（「頸部のみ」25,676人、「頸部+体部」657人）で受診率は21.4%で、平成15年度に比べ対象者数2,323人、受診者数1,150人の減少であった。

要精検者数97人（車検診：20人、施設検診：77人）、要精検率は0.37%で、このうち、精検受診者数は78人、精検受診率は80.4%で、平成15年度より2.2ポイント減少した。精検結果は、がん及び異形成は35人（がん10人、異形成25人）で、がん発見率0.13%で、前年度に比べ、7人、0.02ポイントの減少であった。

市部の受診率が依然と低率であるが、公民館単位で検診に行くということが無くなったことなどが影響しているのではないかと思われる。

年代別にみると、例年通り30歳代の受診率は低いが、約6割は新規受診者が占めており、望ましい傾向に思われる。また、30～40歳代の要精検率、がん発見率は依然として高い。

また、要精検者には、がん発見率が高いので精密検査の早期受診勧奨が必要である。

### 2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者26,333人中、体部がん検診対象者数は743人で、一次検診会場での受診者は657人、また一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者が32人、受診者の合計は689人で、受診率は92.7%であった。

一次検診の結果、要精検となった者は22人、要精検率3.35%で、精密検査受診者数13人、精検受診率59.1%で、一番低い結果であった。

精検の結果、子宮内膜増殖症が一次検診会場で1人、医療機関での検査受診者からは2人発見された。がん発見率は0.44%であった。

### 3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

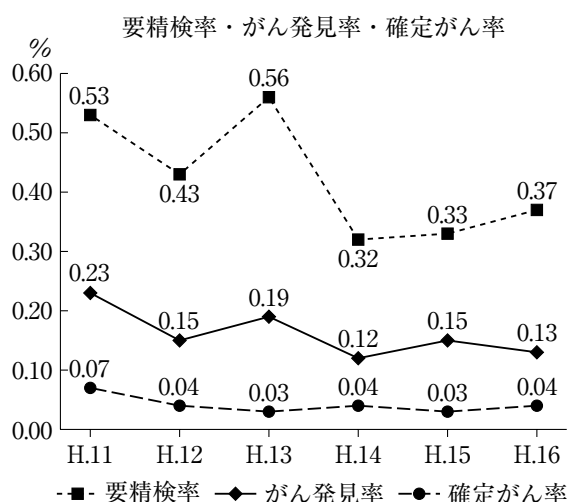
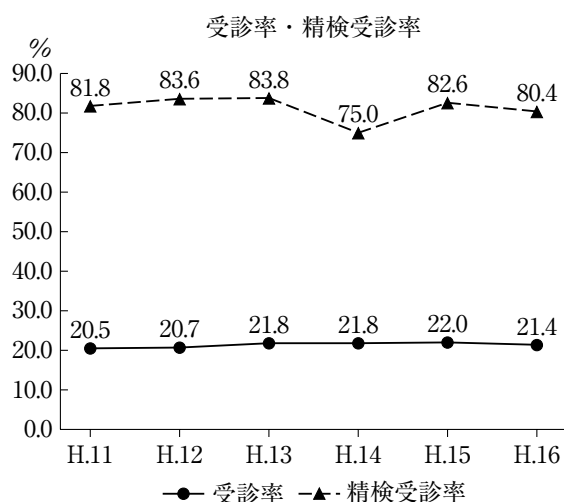
平成16年度は子宮頸部がん11名で、0期が5例、I a期が1例、I b期以上が5例であった。

I b期以上5例の検診歴は、前年受診2例、3年以上の間隔があいたものが1例、初回2例であった。異形成が24例で、平成15年度に比べ10例も減少している。

また、子宮内膜増殖症は3例であった。

## (1) 子宮頸部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区	分	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
一次検診	対象者数(人)	126,103	124,662	121,326	125,040	125,191	122,868
	受診者数(人)	25,874	25,797	26,486	27,197	27,483	26,333
	受診率(%)	20.5	20.7	21.8	21.8	22.0	21.4
一次検診結果	異常認めず(人)	25,737	25,687	26,338	27,109	27,391	26,236
	要精検者数(人)	137	110	148	88	92	97
	要精検率(%)	0.53	0.43	0.56	0.32	0.33	0.37
精密検査	精検受診者数(人)	112	92	124	66	76	78
	精検受診率(%)	81.8	83.6	83.8	75.0	82.6	80.4
	子宮がん又は異形性の者(人)	59	39	49	33	42	35
精密検査結果	精検受診者に占めるがん・異形成の割合(%)	52.7	42.4	39.5	50.0	55.3	44.9
	子宮がん発見率(%)	0.23	0.15	0.19	0.12	0.15	0.13
	確定がん数(人)	19	10	8	12	8	11
確定調査結果	確定がん率(%)	0.07	0.04	0.03	0.04	0.03	0.04



## (2) 平成16年度子宮頸部がん検診結果

### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数(人)	一次検診受診者数(人)	受診率(%)	経年受診者数(再掲)	一次検診結果		要精検率(%)
					要精検者数	異常認めず	
30～34	7,523	1,677	22.3	535	14	1,663	0.83
35～39	6,846	1,764	25.8	963	15	1,749	0.85
40～44	7,365	2,150	29.2	1,269	15	2,135	0.70
45～49	8,465	2,238	26.4	1,507	10	2,228	0.45
50～54	11,025	2,697	24.5	1,831	16	2,681	0.59
55～59	11,518	3,379	29.3	2,420	13	3,366	0.38
60～64	13,271	3,616	27.2	2,576	7	3,609	0.19
65～69	14,581	3,693	25.3	2,800	3	3,690	0.08
70～74	14,455	3,184	22.0	2,464	2	3,182	0.06
75～79	12,271	1,540	12.5	1,204	1	1,539	0.06
80歳以上	15,548	395	2.5	284	1	394	0.25
合計	122,868	26,333	21.4	17,853	97	26,236	0.37

## 2) 精密検診結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数(人)	精密検査受診率(%)	精密検査結果				子宮がん発見率(%)
			異常認めず	その他の疾患	異形成	子宮がん	
30 ~ 34	11	78.6	4	0	6	1	0.417
35 ~ 39	14	93.3	3	2	6	3	0.510
40 ~ 44	13	86.7	3	5	3	2	0.233
45 ~ 49	9	90.0	2	2	4	1	0.223
50 ~ 54	14	87.5	7	4	3	0	0.111
55 ~ 59	8	61.5	5	1	1	1	0.059
60 ~ 64	5	71.4	3	0	2	0	0.055
65 ~ 69	1	33.3	0	0	0	1	0.027
70 ~ 74	1	50.0	1	0	0	0	0.000
75 ~ 79	1	100.0	1	0	0	0	0.000
80歳以上	1	100.0	0	0	0	1	0.253
合 計	78	80.4	29	14	25	10	0.133

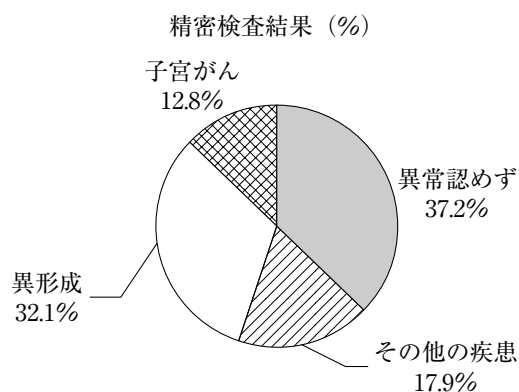
## 3) 検診機関別

### a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数(人)	一 次 検 診 結 果		要精検率(%)
		要精検者数	異常認めず	
保健事業団	11,335	20	11,315	0.18
病 院	6,294	35	6,259	0.56
診 療 所	8,704	42	8,662	0.48
合 計	26,333	97	26,236	0.37

### b. 精密検査結果

一次検診機関	精検検査受診者数(人)	精密検査受診率(%)	精密検査結果				子宮がん発見率(%)
			異常認めず	その他疾患	異形成	子宮がん	
保健事業団	17	85.0	7	0	8	2	0.088
病 院	26	74.3	11	6	5	4	0.143
診 療 所	35	83.3	11	8	12	4	0.184
合 計	78	80.4	29	14	25	10	0.133



4) 平成16年度子宮頸部がん検診受診状況

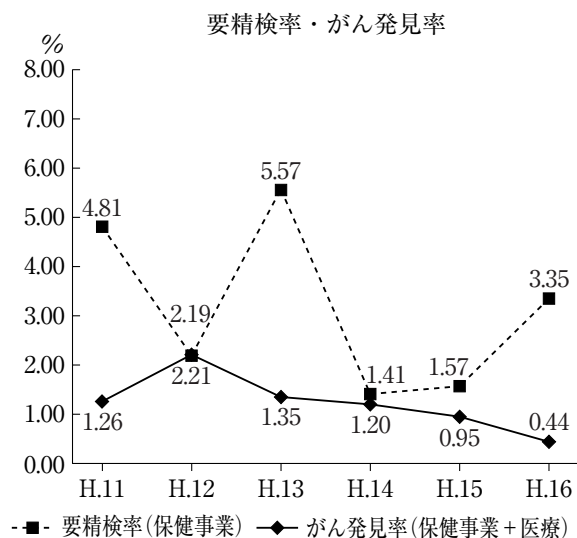
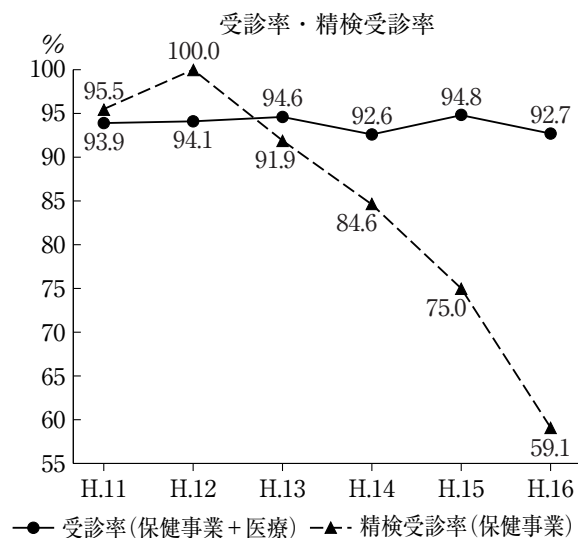
市町村名	対象者数(人) A		受診者数		要精検者				検査結果					人員		
	車検診 B	施設検診 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D / A	車検診 F	施設検診 G	計 H = F + G	要精検率 (%) I = H / D	精検受診者数 J	精検受診率 (%) K = J / H	異常認めず L	その他の疾病 M	がん疑い N	がん O	異常者 総計 P	がん発見率 (%) Q = (N + O) / D
鳥取市	2,204	4,475	6,679	16.3	8	25	33	0.5	28	84.8	12	5	7	4	16	0.165
米子市	66	6,340	6,406	19.2	0	32	32	0.5	26	81.3	4	6	13	3	22	0.250
倉吉市	664	873	1,537	17.1	3	3	6	0.4	6	100.0	3	0	3	0	3	0.195
境港市	0	948	948	11.2	0	1	1	0.1	1	100.0	0	0	0	1	1	0.105
岩美町	714	0	714	35.6	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
八頭町	1,311	82	1,393	34.3	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
若桜町	373	9	382	32.4	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
智頭町	504	155	659	36.8	0	2	2	0.3	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
湯梨浜町	367	577	944	39.3	0	3	3	0.3	1	33.3	0	1	0	0	1	0.000
三朝町	451	0	451	46.0	1	0	1	0.2	1	100.0	0	0	1	0	1	0.222
北条町	366	101	467	31.6	2	5	7	1.5	5	71.4	5	0	0	0	0	0.000
大栄町	769	0	769	59.2	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
琴浦町	1,336	17	1,353	27.2	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
南部町	208	237	445	40.7	0	2	2	0.4	2	100.0	0	2	0	0	2	0.000
伯耆町	631	290	921	42.2	3	3	6	0.7	5	83.3	3	0	1	1	2	0.217
日吉津村	35	151	186	36.9	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
大山町	639	291	930	24.6	2	0	2	0.2	2	100.0	1	0	0	1	1	0.108
日南町	422	33	455	30.7	1	1	2	0.4	1	50.0	1	0	0	0	0	0.000
日野町	865	59	334	38.6	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
江府町	937	0	360	38.4	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
合計	11,335	14,998	26,333	21.4	20	77	97	0.4	78	80.4	29	14	25	10	49	0.133
東部	5,106	4,721	9,827	19.6	8	27	35	0.4	28	80.0	12	5	7	4	16	0.112
中部	20,125	3,953	5,521	27.4	6	11	17	0.3	13	76.5	8	1	4	0	5	0.072
西部	52,640	2,276	10,985	20.9	6	39	45	0.4	37	82.2	9	8	14	6	28	0.182

### (3) 子宮体部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区	分	平成 11 年度			平成 12 年度			平成 13 年度		
		保 健 事業分	医療分	合計	保 健 事業分	医療分	合計	保 健 事業分	医療分	合計
一 次 検 診	対 象 者 数(人)	506		506	626		626	785		785
	受 診 者 数(人)	457	18	475	502	87	589	664	79	743
	受 診 率(%)	90.3		93.9	80.2		94.1	84.6		94.6
一次検診結果	異 常 認 め ず(人)	435			491			627		
	要 精 検 者 数(人)	22			11			37		
	要 精 検 率(%)	4.81			2.19			5.57		
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人)	21			11			34		
	精 検 受 診 率(%)	95.5			100.0			91.9		
精密検査結果	子宮がん又はがんの 疑いのある者 (人)	5	1	6	2	11	13	8	2	10
	子宮がん発見率(%)	1.09	5.56	1.26	0.40	12.64	2.21	1.20	2.53	1.35

区	分	平成 14 年度			平成 15 年度			平成 16 年度		
		保 健 事業分	医療分	合計	保 健 事業分	医療分	合計	保 健 事業分	医療分	合計
一 次 検 診	対 象 者 数(人)	1,084		1,084	885		885	743		743
	受 診 者 数(人)	921	83	1,004	762	77	839	657	32	689
	受 診 率(%)	85.0		92.6	86.1		94.8	88.4		92.7
一次検診結果	異 常 認 め ず(人)	908			750			635		
	要 精 検 者 数(人)	13			12			22		
	要 精 検 率(%)	1.41			1.57			3.35		
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人)	11			9			13		
	精 検 受 診 率(%)	84.6			75.0			59.1		
精密検査結果	子宮がん又はがんの 疑いのある者 (人)	5	7	12	4	4	8	1	2	3
	子宮がん発見率(%)	0.54	8.43	1.20	0.52	5.19	0.95	0.15	6.25	0.44

※「保健事業分」については医療機関検診及び集団検診において検診を受けた者、「医療分」については集団検診で当日体部がん検診を受けられず、後日医療機関で受診した者です。



#### (4) 平成16年度子宮体部がん検診結果

##### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検診対象者数(人)	一次検診受診者数(人)	受診率(%)	一 次 検 診 結 果		要精検率(%)
				要精検者数	異常認めず	
30～34	59	59	100.0	1	58	1.69
35～39	63	62	98.4	1	61	1.61
40～44	97	95	97.9	1	94	1.05
45～49	132	125	94.7	4	121	3.20
50～54	163	140	85.9	10	130	7.14
55～59	107	90	84.1	1	89	1.11
60～64	57	46	80.7	2	44	4.35
65～69	27	20	74.1	1	19	5.00
70～74	23	13	56.5	0	13	0.00
75～79	13	7	53.8	1	6	14.29
80歳以上	2	0	0.0	0	0	0.00
合 計	743	657	88.4	22	635	3.35

##### 2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数(人)	精 密 検 査 結 果				子宮がん発見率(%)
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮体部がん	
30～34	0	0	0	0	0	0.00
35～39	1	0	0	1	0	1.61
40～44	1	1	0	0	0	0.00
45～49	2	2	0	0	0	0.00
50～54	9	6	3	0	0	0.00
55～59	0	0	0	0	0	0.00
60～64	0	0	0	0	0	0.00
65～69	0	0	0	0	0	0.00
70～74	0	0	0	0	0	0.00
75～79	0	0	0	0	0	0.00
80歳以上	0	0	0	0	0	0.00
合 計	13	9	3	1	0	0.15

##### 3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診できなかった者の結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検査受診者数(人)	検 査 結 果			
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮体部がん
30～34	1	1	0	0	0
35～39	1	1	0	0	0
40～44	1	1	0	0	0
45～49	5	2	3	0	0
50～54	5	5	0	0	0
55～59	7	5	2	0	0
60～64	4	3	1	0	0
65～69	3	1	1	1	0
70～74	4	3	0	1	0
75～79	1	1	0	0	0
80歳以上	0	0	0	0	0
合 計	32	23	7	2	0

4) 平成16年度子宮体部がん検診受診状況

市町村名	対象者数(人) A		受診者数			要精密検査者				検査結果別人員						
	車検診 B	施設検診 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D / A	車検診 F	施設検診 G	計 H = F + G	要精密検査率 (%) I = H / D	精検受診者数 J	精検受診率 (%) K = J / H	異常認めず L	その他の疾病 M	子宮内膜 増殖症 N	がん O	異常者 総計 P	がん発見率 (%) Q = (N + O) / D
鳥取市	0	254	254	84.4	0	5	5	2.0	4	80.0	2	1	1	0	2	0.394
米子市	0	303	303	100.0	0	4	4	1.3	4	100.0	4	0	0	0	0	0.000
倉吉市	0	50	50	86.2	0	8	8	16.0	1	12.5	1	0	0	0	0	0.000
境港市	0	7	7	100.0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.000
岩美町	0	0	0	0.0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.000
郡家町	0	8	8	50.0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.000
若桜町	0	0	0	0.0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.000
智頭町	3	0	1	33.3	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.000
湯梨浜町	3	0	3	100.0	0	3	3	100.0	2	66.7	2	0	0	0	0	0.000
三朝町	6	0	3	50.0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.000
北条町	3	0	0	0.0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.000
大栄町	2	0	0	0.0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.000
琴浦町	4	0	0	0.0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.000
南部町	9	0	9	100.0	0	2	2	22.2	2	100.0	0	2	0	0	2	0.000
伯耆町	5	1	1	20.0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.000
日吉津村	6	0	6	100.0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.000
大山町	5	0	5	100.0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.000
日南町	2	0	0	0.0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.000
日野町	1	0	1	100.0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.000
江府町	6	0	6	100.0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.000
合 計	743	5	657	88.4	0	22	22	3.3	13	59.1	9	3	1	0	4	0.152

(5) 平成16年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車検診		施設検診	
	平成15年度	平成16年度	平成15年度	平成16年度
異形成	14	7(5)	20	17
頸癌0期	2	1	3	4
頸癌I a期	0	1	2	0
頸癌I b期以上	0	0	1	5
合計	16	9(7)	26	26

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	平成15年度	平成16年度
内膜増殖症	3	3
体癌I a、I b期	1	0
体癌I c期以上	0	0
合計	4	3

表3 発見子宮がん症例（I b期以上）のがん検診受診歴

受診歴	車検診	施設検診	計
前年受診	0	2	2
2年間隔	0	0	0
3年以上の間隔	0	1	1
初回受診	0	2	2

表4 治療機関

	頸癌0期	頸癌I a期	頸癌I b期以上
鳥取大学	3	0	4
県立中央	1	0	0
鳥取市立	0	1	1
鳥取赤十字	1	0	0



### 3. 肺 が ん 検 診

#### 1. 肺がん検診実績

平成16年度の対象者数（40歳以上の者のうち職場等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数）は175,873人で、このうち受診者数は60,113人（車検診：46,391人、施設検診：13,722人）で、受診率は34.2%で、前年度に比べ、対象者数が約2,890人、受診者数も約3,540人の減少で、受診率も低下傾向にある。

要精検者数は1,791人で、要精検率は2.98%で平成15年度より1,151人、1.97ポイントも増加した。判定基準の見直しにより要精検率は全国平均並みとなり、各地区とも著しく増加した。特に中部が4.71%（東部2.75%、西部1.71%）と非常に高く、地域格差がある。また、一次検診を病院、診療所で受診された人の要精検率も高くなっている。

そのうち、精検受診者は1,433人、精検受診率は80.0%で、昨年度に引き続き、精検受診率が向上しているが、年齢別にみると低いところもあるので、各市町村の保健師さんをお願いして受診勧奨に努めていきたい。

精検結果、肺がん45人、肺がん疑いが48人の計93人が発見され、がん発見率は0.15%で、過去最高の成績であったが、例年に比べがん疑いが非常に多かった。

よって、確定調査の結果、確定がん51人、がん発見率0.08%と割合少ない結果となった。また、陽性反応適中度は平成15年度12.2%に比べ、平成16年度は5.1%に低下した。

検診1年後においても、疑いのまま経過観察中というものが多かったので、今後、読影の精度を高めていく必要があると思われる。

また、受診者総数のうち経年受診者は87.4%を占め、この経年受診者のがん発見率は0.14%、非経年受診者のがん発見率0.29%であった。

X線検査受診者60,113人中、喀痰検査の対象者となる高危険群所属者は7,697人で、そのうち喀痰検査を受診した者は4,483人であった。高危険群所属者のうち、がん・がん疑いの者が33人発見され、がん発見率は0.43%であった。

非高危険群所属者のうち、がん・がん疑いの者が60人発見され、がん発見率は0.11%で、高危険群所属者のがん発見率の方が約3.9倍高かった。

#### 2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

1) 平成16年度は原発性肺癌49例（発見率10万対81）、転移性肺腫瘍2例、合計51例であった。

(1) 受診者数が減少し、要精検者数が増加したが、肺がん疑いのまま、経過観察中の患者も多い。

要精検者数の増加は積極的にE判定をつけた結果を反映していると思われる。

(2) 東、中、西部の受診率、要精検率に較差がある。中部が最も積極的にE判定をつけている。

(D判定肺癌：東部1名、中部0名、西部2名)

(3) 胸部X線のみでの発見肺がんの割合は48例（98.0%）と引き続き、高い傾向が続いている。内訳はE発見が45/48（93.8%）と例年より高率であった。

(4) 女性肺癌は20/49例（40.8%）、腺癌は30/49例（61.2%）といずれも、昨年より高率となった。

(5) 手術症例の割合は71.4%と増加し、その背景にI期肺癌の割合の増加36/49例（73.5%）があり、手術の根治性も高かった。

(6) 腫瘍径は平均30.2mmと昨年よりも小径が増加し、2cm以下は19例（38.8%）であった。

(7) 転移性肺腫瘍は2例で、肝臓癌の転移1例と不明1例であった。

(8) 車検診と施設検診の比較を行った。要精検率は車検診2.5%、施設検診4.7%で、施設検診の方が高く、特に中部地区が12.5%と非常に高かった。原発性肺がん49例のうち、車検診からは42例、発見率0.091%、施設検診7例、発見率0.051%であった。

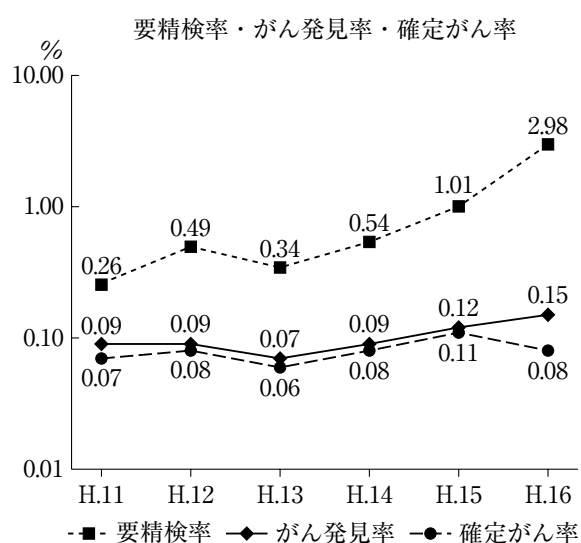
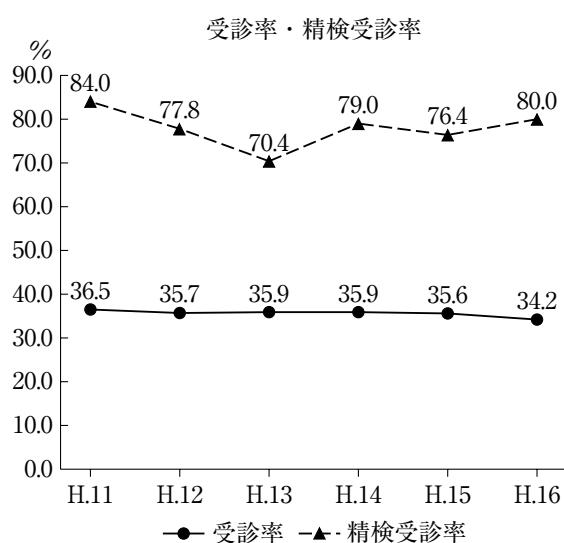
2) 昭和62年から平成16年までの原発性肺癌は658例(発見率10万対60)であった。診断方法は胸X567例(86.2%)、細胞診52例(7.9%)、両者38例(5.8%)である。最近の特徴として細胞診からの肺癌発見が少なくなっている。平均年齢71.4歳、男：女=420：238で、最近の女性肺癌の増加が著しい。臨床病期はI期が344人(52.3%)で過半数を占め、378例(57.4%)に手術が行われた。

手術有無別の累積生存率、術後病期別(新分類)の累積生存率は次頁の図に示す。全症例(658例)の5生率37.6%、10生率21.1%であり、手術例の5生率58.2%、10生率35.4%である。そして手術例の1A期(172例)の5生率は78.2%、10生率は55.4%と良好な結果を示している。

### (1) 肺がん検診の受診者数及び受診率の推移

区	分	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
一次検診	対象者数(人)	177,815	175,818	174,453	177,198	178,762	175,873
	受診者数(人)	64,845	62,837	62,631	63,616	63,649	60,113
	受診率(%)	36.5	35.7	35.9	35.9	35.6	34.2
一次検診結果	異常認めず(人)	64,676	62,526	62,415	63,273	63,009	58,327
	要精検者数(人)	169	311	216	343	640	1,791
	要精検率(%)	0.26	0.49	0.34	0.54	1.01	2.98
精密検査	精検受診者数(人)	142	242	152	271	489	1,433
	精検受診率(%)	84.0	77.8	70.4	79.0	76.4	80.0
精密検査結果	肺がん又はがんの疑いのある者(人)	58	59	43	59	78	93
	肺がん発見率(%)	0.09	0.09	0.07	0.09	0.12	0.15
確定調査結果	確定がん数(人)	48 (41)	48 (42)	37 (30)	54 (48)	69 (65)	51 (49)
	確定がん率(%)	0.07	0.08	0.06	0.08	0.11	0.08

※確定がん数の( )の数字は原発性肺癌です。



(2) 平成16年度肺がん検診検査結果（検診機関別）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

a. X線検査結果

年 齢	対象者数 (人)		X 線 検 査								X 線 フ ィ ル ム 読 影 結 果							
			X線検査 受診者数		受診率 (%)		経年受診 者数再掲		経年受診 者数割合 (%)		異常認めず		要精検 者 数		要精検率 (%)		X線検査受診 者中高危険群 所 属 者 数	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44	3,706	6,302	577	1,330	15.6	21.1	461	1,025	79.9	77.1	561	1,310	16	20	2.77	1.50	13	8
45～49	4,701	7,264	743	1,642	15.8	22.6	583	1,324	78.5	80.6	724	1,614	19	28	2.56	1.71	14	6
50～54	6,611	9,973	1,235	2,714	18.7	27.2	952	2,210	77.1	81.4	1,208	2,658	27	56	2.19	2.06	538	32
55～59	7,253	10,770	1,619	3,888	22.3	36.1	1,283	3,302	79.2	84.9	1,560	3,824	59	64	3.64	1.65	720	58
60～64	9,464	13,309	2,679	5,236	28.3	39.3	2,094	4,501	78.2	86.0	2,592	5,129	87	107	3.25	2.04	1,120	78
65～69	10,670	14,961	3,699	6,284	34.7	42.0	3,121	5,633	84.4	89.6	3,570	6,144	129	140	3.49	2.23	1,299	55
70～74	10,629	15,231	4,576	7,090	43.1	46.5	4,070	6,368	88.9	89.8	4,391	6,848	185	242	4.04	3.41	1,627	45
75～79	8,168	13,030	3,779	5,776	46.3	44.3	3,479	5,364	92.1	92.9	3,626	5,604	153	172	4.05	2.98	1,290	38
80歳以上	7,181	16,650	2,698	4,548	37.6	27.3	2,539	4,235	94.1	93.1	2,583	4,381	115	167	4.26	3.67	742	14
計	68,383	107,490	21,605	38,508	31.6	35.8	18,582	33,962	86.0	88.2	20,815	37,512	790	996	3.66	2.59	7,363	334
合 計	175,873		60,113		34.2		52,544		87.4		58,327		1,786		2.97		7,697	

b. 喀痰細胞診結果

年 齢	喀痰細胞診受診者数 (人)		喀 痰 細 胞 診 結 果				要精検率 (%)	
			精検不要		要精検者数			
	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44	66	18	66	18	0	0	0.00	0.00
45～49	91	19	91	19	0	0	0.00	0.00
50～54	216	47	214	47	0	0	0.00	0.00
55～59	322	98	320	97	3	0	0.93	0.00
60～64	554	141	554	141	0	0	0.00	0.00
65～69	665	127	663	125	0	0	0.00	0.00
70～74	841	121	838	121	0	0	0.00	0.00
75～79	679	105	677	104	2	0	0.29	0.00
80歳以上	327	46	326	46	0	0	0.00	0.00
計	3,761	722	3,749	718	5	0	0.13	0.00
合 計	4,483		4,467		5		0.11	

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	要精検者数 (人)		精密検査 受診者数		精密検査 受診率(%)		精密検査結果								肺がん発見率 (%)	
							異常認めず		その他の疾病		肺がん疑い		肺がん			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44	16	20	8	16	50.0	80.0	7	13	1	2	0	0	0	1	0.000	0.075
45～49	19	28	15	21	78.9	75.0	11	20	4	1	0	0	0	0	0.000	0.000
50～54	27	56	23	47	85.2	83.9	12	22	9	22	1	2	1	1	0.162	0.111
55～59	62	64	46	51	74.2	79.7	31	33	12	16	1	1	2	1	0.185	0.051
60～64	87	107	69	92	79.3	86.0	42	49	26	41	1	2	0	0	0.037	0.038
65～69	129	140	95	118	73.6	84.3	50	68	38	47	4	1	3	2	0.189	0.048
70～74	185	242	154	199	83.2	82.2	72	114	66	74	9	6	7	85	0.350	0.155
75～79	155	172	120	139	77.4	80.8	52	75	56	53	4	7	8	4	0.318	0.190
80歳以上	115	167	85	135	73.9	80.8	30	55	46	70	4	5	5	5	0.334	0.220
計	795	996	615	818	77.4	82.1	307	449	258	326	24	24	26	19	0.231	0.112
合計	1,791		1,433		80.0		756		584		48		45		0.155	

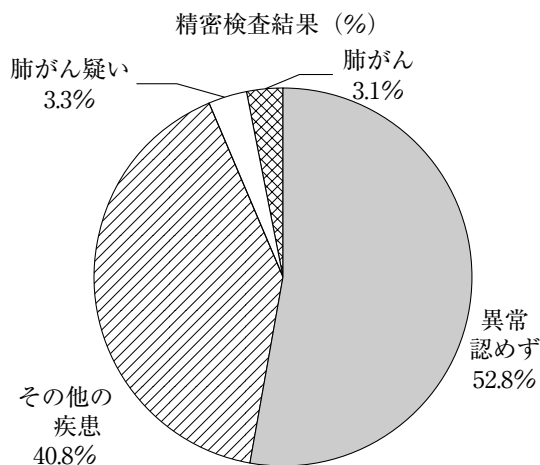
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次 検診機関	一次検診受診者数 (人)		一次検診結果				要精検率(%)	
			要精検者数		異常認めず			
	男	女	男	女	男	女	男	女
保健事業団	16,267	29,238	480	632	15,787	28,606	2.95	2.16
中国労働 衛生協会	345	541	18	15	327	526	5.22	2.77
病院	2,270	3,710	167	159	2,103	3,551	7.36	4.29
診療所	2,723	5,019	130	190	2,593	4,829	4.77	3.79
計	21,605	38,508	795	996	20,810	37,512	3.68	2.59
合計	60,113		1,791		58,322		2.98	

b. 精密検査結果

一 次 検診機関	要精検者数 (人)		精密検査受 診者数(人)		精密検査受 診率 (%)		精 密 検 査 結 果								肺がん発見 率 (人)	
	男	女	男	女	男	女	異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん		男	女
							男	女	男	女	男	女	男	女		
保健事業団	480	632	370	526	77.1	83.2	168	276	162	215	21	20	19	15	0.246	0.120
中国労働 衛生協会	18	15	14	15	77.8	100.0	8	13	4	2	0	0	2	0	0.580	0.000
病 院	167	159	149	124	89.2	78.0	88	80	55	40	2	2	4	2	0.264	0.108
診 療 所	130	190	82	153	63.1	80.5	43	80	37	69	1	2	1	2	0.073	0.080
計	795	996	615	818	77.4	82.1	307	449	258	326	24	24	26	19	0.231	0.112
合 計	1,791		1,433		80.0		756		584		48		45		0.155	



4) 平成16年度肺がん検診受診状況

市町村名	対象者数(人)				受診者数				要精密検査者				検査結果別人員						
	A	B	C	計	施設検診	車検診	受診率(%)	E = D/A	施設検診	計	要精密検査率(%)	精密検査者数	精検受診率(%)	L	M	N	O	P	がん発見率(%)
				D = B + C					H = F + G	I = H/D	J	K = J/H							Q = (N + O)/D
鳥取市	53,594	6,640	12,025	18,665	0	107	34.8	563	3.02	446	79.2	239	186	11	10	207	0.113		
米子市	45,555	5,917	0	5,917	84	84	13.0	84	1.42	69	82.1	27	37	2	3	42	0.085		
倉吉市	14,258	2,604	654	3,258	109	109	22.9	202	6.20	172	85.1	94	70	4	4	78	0.246		
境港市	11,905	1,023	0	1,023	16	16	8.6	16	1.56	14	87.5	4	8	1	1	10	0.196		
岩美町	2,890	1,077	0	1,077	17	17	37.3	17	1.58	17	100.0	11	4	2	0	6	0.186		
八頭町	6,350	3,723	107	3,830	60	60	60.3	65	1.70	58	89.2	30	21	1	6	28	0.183		
若桜町	1,103	674	0	674	22	22	61.1	22	3.26	21	95.5	18	3	0	0	3	0.000		
智頭町	3,012	1,224	176	1,400	30	30	46.5	38	2.71	27	71.1	20	7	0	0	7	0.000		
湯梨浜町	5,466	2,979	513	3,492	88	88	63.9	145	4.15	106	73.1	66	30	5	5	40	0.286		
三朝町	2,076	1,662	0	1,662	79	79	80.1	79	4.75	59	74.7	23	32	4	0	36	0.241		
北条町	1,970	1,282	215	1,497	45	45	76.0	72	4.81	46	63.9	22	20	1	3	24	0.267		
大栄町	2,592	2,076	0	2,076	104	104	80.1	104	5.01	83	79.8	32	46	3	2	51	0.241		
琴浦町	6,737	4,561	32	4,593	178	178	68.2	178	3.88	145	81.5	58	75	10	2	87	0.261		
南部町	2,426	1,319	0	1,319	38	38	54.4	38	2.88	35	92.1	22	12	1	0	13	0.076		
伯耆町	3,525	2,317	0	2,317	44	44	65.7	44	1.90	25	56.8	18	4	0	3	7	0.129		
日吉津村	640	355	0	355	10	10	55.5	10	2.82	8	80.0	2	5	1	0	6	0.282		
大山町	7,135	4,206	0	4,206	62	62	58.9	62	1.47	58	93.5	40	13	2	3	18	0.119		
日南町	2,182	1,197	0	1,197	15	15	54.9	15	1.25	12	80.0	6	5	0	1	6	0.084		
日野町	1,385	669	0	669	4	4	48.3	4	0.60	3	75.0	3	0	0	0	0	0.000		
江府町	1,072	886	0	886	33	33	82.6	33	3.72	29	87.9	21	6	0	2	8	0.226		
合計	175,873	46,391	13,722	60,113	1,145	1,145	34.2	1,791	2.98	1,433	80.0	756	584	48	45	677	0.155		
東部	66,949	13,338	12,308	25,646	236	236	38.3	705	2.75	569	80.7	318	221	14	16	251	0.117		
中部	33,099	15,164	1,414	16,578	603	603	50.1	780	4.71	611	78.3	295	273	27	16	316	0.259		
西部	75,825	17,889	0	17,889	306	306	23.6	306	1.71	253	82.7	143	90	7	13	110	0.112		

(3) 平成16年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性658、転移性86）	744例
他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5）	12例
総 計	756例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	62年	63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5
合 計	6	26	22	36	43	46	44	27	43

	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
原発性肺癌	38	53	40	41	42	30	48	65	49
転移性肺腫瘍	4	2	7	7	6	7	6	4	2
合 計	42	55	47	48	48	37	54	69	51

	合計
原発性肺癌	658
転移性肺腫瘍	86
合 計	744

2) 原発性肺がん診断方法

				〔H16年度集計〕			
胸 X 間 接	Dのみ	224例	} 567例( 86.2%)	Dのみ	3例	} 48例( 98.0%)	(E1:22例、E2:16例、不明:7例)
	Eのみ	343例		Eのみ	45例		
細 胞 診	Dのみ	18例	} 52例( 7.9%)	Dのみ	0例	} 1例( 2.0%)	
	Eのみ	34例		Eのみ	1例		
胸X線間接と細胞診	D + D	10例	} 38例( 5.8%)	D + D	0例	} 0例( 0.0%)	
	D + E	8例		D + E	0例		
	E + D	4例		E + D	0例		
	E + E	16例		E + E	0例		
	不明	1例		1例( 0.1%)	不明		
計 658例				計 49例			



### 3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745 (4.54%)	652 (87.5%)	6	37
S 63	38,445	65 (0.17%)	60 (92.3%)	22	57
H 1	52,473	117 (0.22%)	107 (91.5%)	18	34
H 2	68,374	153 (0.22%)	132 (86.3%)	32	49
H 3	70,189	95 (0.14%)	89 (93.7%)	36	51
H 4	69,909	133 (0.19%)	111 (83.5%)	37	53
H 5	69,027	133 (0.19%)	98 (72.9%)	41	59
H 6	66,316	103 (0.16%)	89 (86.4%)	22	33
H 7	65,226	162 (0.25%)	135 (83.3%)	38	58
H 8	64,169	114 (0.18%)	91 (79.8%)	38	59
H 9	67,092	152 (0.23%)	123 (80.9%)	53	79
H10	64,540	137 (0.21%)	111 (81.0%)	40	62
H11	64,845	169 (0.26%)	142 (84.0%)	41	64
H12	62,837	311 (0.49%)	242 (77.8%)	42	67
H13	62,631	216 (0.34%)	152 (70.4%)	30	48
H14	63,616	343 (0.54%)	271 (79.0%)	48	75
H15	63,649	640 (1.01%)	489 (76.4%)	65	102
H16	60,127	1,805 (3.00%)	1,420 (78.7%)	49	81
計	1,089,885	5,593 (0.51%)	4,514 (80.7%)	658	60

### 4) 原発性肺癌 (658例)

#### a. 年齢・性別

〔H16年度集計〕

区 分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	51例	7.8
60～69歳	208	31.6
70～79歳	299	45.4
80～	100	15.2
計	658	100.0

区 分	原発性肺癌	比率 (%)
50～59歳	6例	12.2
60～69歳	4	8.2
70～79歳	30	61.2
80～	9	18.4
計	49	100.0

平均年齢=71.4  
男：女=420例：238例

平均年齢=72.7  
男：女=29例：20例

#### b. 原発性肺癌の臨床病期と組織型

##### (a) 病期分類

〔H16年度集計〕

臨床病期	(%)
Occult	2例
I A	236 (35.9)
I B	108
II A	23
II B	47
III A	96
III B	44
IV	78
不明	24
計	658

臨床病期	(%)
Occult	0
I A	24 (49.0)
I B	12
II A	1
II B	2
III A	3
III B	4
IV	3
不明	0
計	49

} 36  
(73.5%)

## (b) 組織型

〔H16年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	208例
腺癌	340(51.6)
大細胞癌	10
小細胞癌	41
腺扁平上皮癌	6
腺様嚢胞癌	1
不明	53
計	659

組織型	(%)
扁平上皮癌	12例
腺癌	30(60.0)
大細胞癌	0
小細胞癌	3
腺扁平上皮癌	1
腺様嚢胞癌	0
不明	4
計	50

※1例 扁平上皮癌と腺癌の同時多発癌を含む

## c. 原発性肺癌の手術症例 (378例、手術率：57.4%)

〔H16年度集計〕

原発性肺癌の手術症例

## (a) 臨床病期、術後病期

(35例、手術率：71.4%)

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	2例	Occult	2例
I A	197(52.1)	I A	171(45.2)
I B	81	I B	82
II A	11	II A	15
II B	24	II B	30
III A	50	III A	53
III B	10	III B	15
IV	3	IV	10
計	378	計	378

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	0例	Occult	0例
I A	21(60.0)	I A	16(45.7)
I B	11	I B	13
II A	0	II A	1
II B	1	II B	3
III A	1	III A	2
III B	1	III B	0
IV	0	IV	0
計	35	計	35

## (b) 組織型分類

〔16年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	113例
腺癌	242(63.8)
大細胞癌	9
小細胞癌	6
腺扁平上皮癌	7
腺様嚢胞癌	1
不明	1
計	379

組織型	(%)
扁平上皮癌	10例
腺癌	25(67.4)
大細胞癌	0
小細胞癌	0
腺扁平上皮癌	1
腺様嚢胞癌	0
不明	0
計	36

※1例 扁平上皮癌と腺癌の同時多発癌を含む

## (c) 根治度

〔平成16年度集計〕

根治度分類	(%)
絶対的治癒手術	279例(73.8)
相対的治癒手術	54
相対的非治癒手術	22
絶対的非治癒手術	19
不明	4
計	378

} 333(88.1%)

根治度分類	(%)
絶対的治癒手術	26例(74.3)
相対的治癒手術	5
相対的非治癒手術	4
絶対的非治癒手術	0
不明	0
計	35

} 31(88.6%)

d. 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)
0～10	1例	2例	1例	0例	2例	1例	2例
11～20	9(22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.7)
21～30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10
31～40	6	9	8	9	8	17(26.2)	11
41～50	7	1	3	1	3	8	4
51～	7	2	6	3	3	13	5
不明	4	2	2	0	2	2	0
計	40	41	42	30	48	65	49
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	30.2mm

最高145mm 70mm

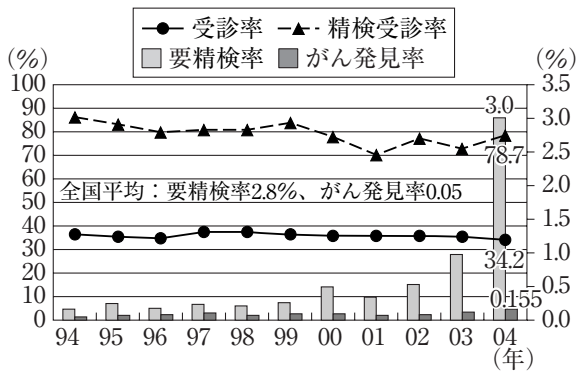
5) 転移性肺腫瘍 (86例)

大腸癌：24例 腎臓癌：9例 甲状腺癌：9例 乳癌：7例 肝臓癌：6例  
 前立腺癌：4例 胆のう癌：3例 卵巣癌：2例 胃癌：2例 肺癌：2例  
 子宮癌：2例 尿管癌：2例 食道癌：2例 咽頭癌：1例 肛門癌：1例  
 顎下腺：1例 子宮肉腫：1例 胸腺癌：1例 膵臓癌：1例 膀胱癌：1例  
 胆管癌：1例 不明：4例

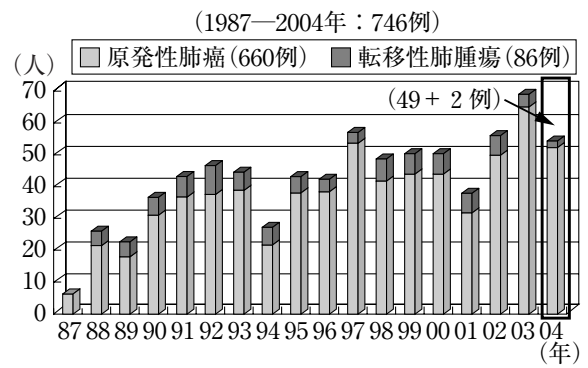
6) 原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

	施設検診	車検診
受診者数	13,722	46,391
要精検数	646 (4.7%) 東部：3.8% 中部：12.5% 西部：—	1,145 (2.5%) 東部：1.8% 中部：4.0% 西部：1.7%
確定者数	7名 (0.051%)	42名 (0.091%)
発見方法	E判定 7名	D判定 3名 E判定 38名 (喀痰E判定：1名)
年齢	65.9歳	73.9歳
性差	男1名、女6名	男28名、女14名
臨床病期	I A 5名、I B 1名  III A 1名	I A 19名、I B 11名 II A 1名、II B 2名 III A 3名、III B 4名 IV 3名
組織型	扁平上皮癌 2名、腺癌 3名 腺扁平上皮癌 1名、不明 1名	扁平上皮癌10名、腺癌27名 小細胞癌 3名、不明 3名 (扁、腺の多発 1名)
手術	あり 6名、なし 1名	あり 29名、なし 13名
腫瘍径	34.0mm	29.4mm

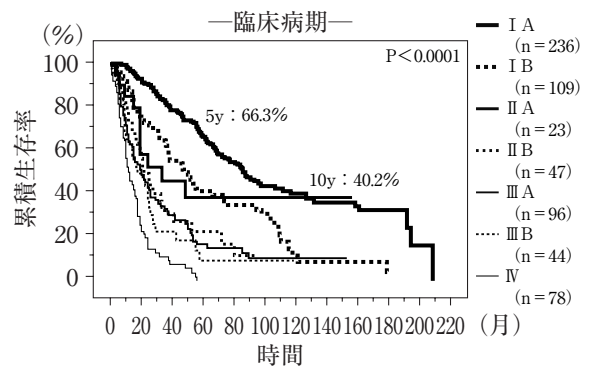
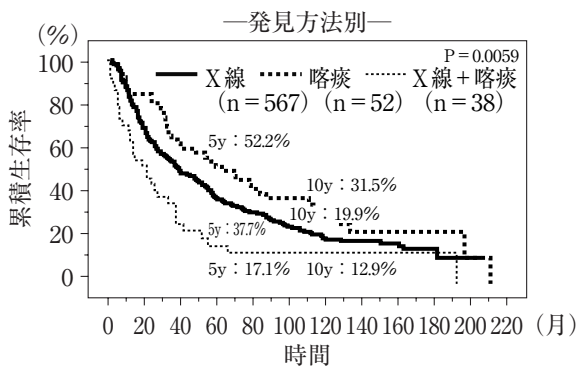
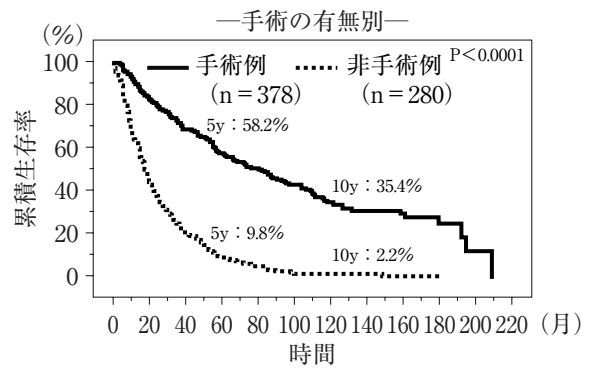
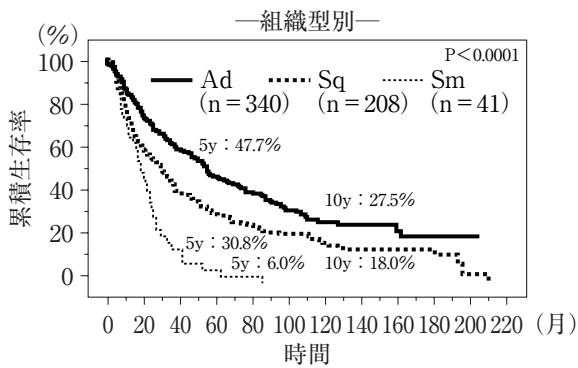
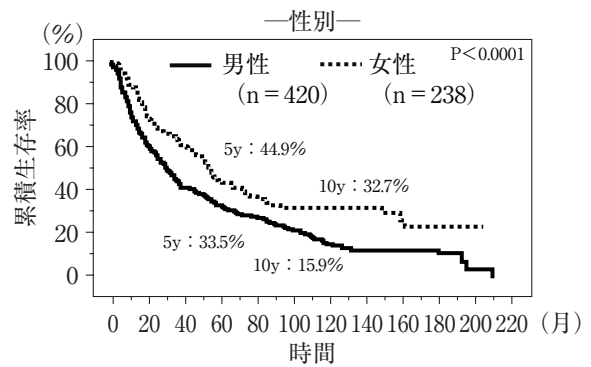
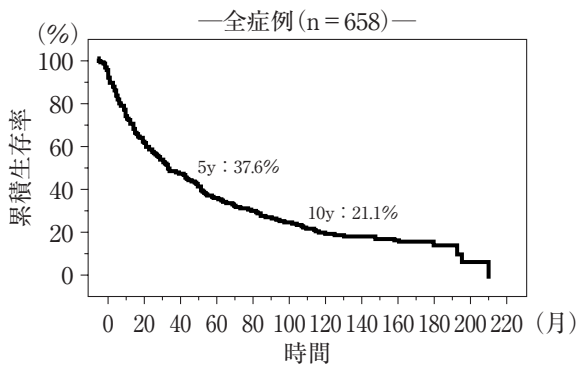
7) 肺癌検診の受診率・精検率・がん発見率の推移



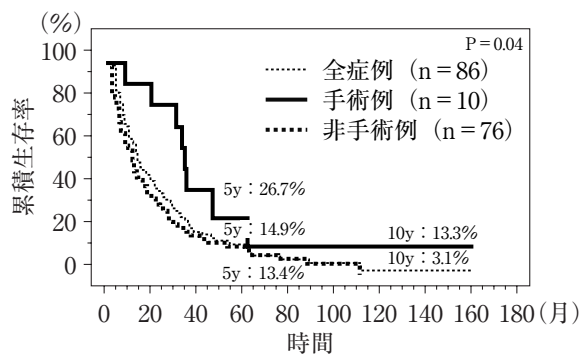
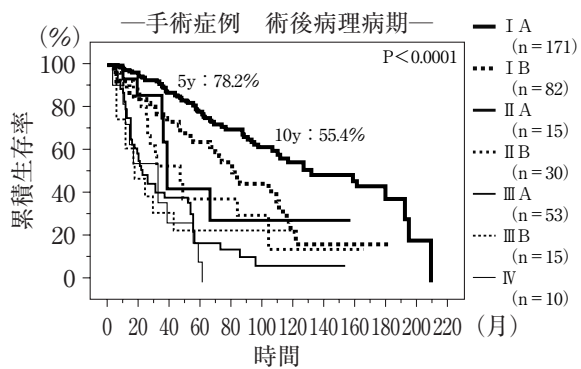
8) 検診で発見された肺癌の推移



9) 検診発見肺癌の予後



10) 検診発見転移性肺腫瘍の予後



## 4. 乳 がん 検 診

### 1. 乳がん検診実績

平成16年度の対象者数（30歳以上の女性のうち職場等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数）は125,270人で、このうち受診者数は29,888人（出張検診：12,071人、施設検診：17,817人）で受診率は23.9%であった。受診率の全国平均は11.3%で、鳥取県は非常に良好な数字であるが、さらなる受診率の向上を目指す必要があると思われる。

要精検者数は1,003人（出張検診：117人、施設検診：886人）、要精検率は3.36%で、精検受診者数875人、精検受診率は87.2%であった。

精検の結果、乳がん又は乳がん疑いが46人発見され、がん発見率0.154%であった。

平成16年度実績は、受診者数、要精検者数、精検受診者数、発見がん患者数、及びそれぞれの率は昨年度より減少している。また、各検診機関の要精検率に格差があり、病院が5.92%、鳥取県保健事業団が0.58%と約10倍の違いが見られた。また、陽性反応適中度（発見癌/要精検者数）においても格差が生じている。鳥取県保健事業団：11.67%、病院：3.01%

平成16年度は5町でマンモグラフィ併用検診が行われ、受診者数1,564人、要精検数90人、要精検率5.75%、がん及びがん疑いは5人発見された。

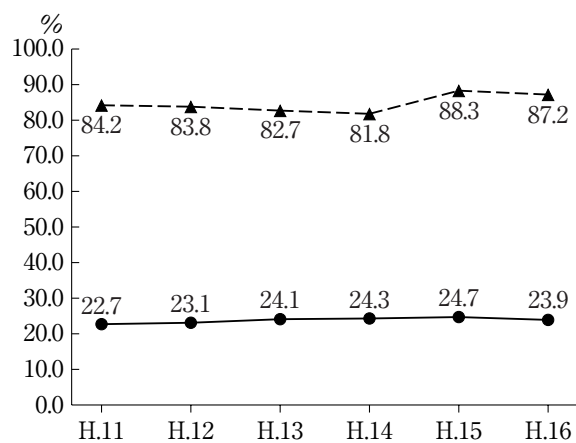
### 2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

平成16年度の確定乳がんは46例で、マンモグラフィ単独による発見がんが3例あった。平均年齢は58.1歳。年齢による進行度に差は認められなかった。非浸潤癌が2例で前年度9例より減少した。温存手術例の割合が昨年度に比べ低下した。進行度と検診歴の間には関連は認めなかったが、経年検診に進行例が多い傾向であった。

## (1) 乳がん検診の受診者数及び受診率の推移

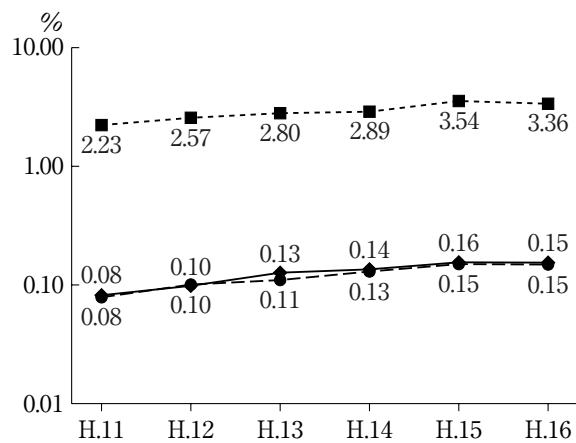
区	分	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
一次検診	対象者数(人)	128,948	127,810	123,896	127,944	127,945	125,270
	受診者数(人)	29,231	29,532	29,840	31,105	31,539	29,888
	受診率(%)	22.7	23.1	24.1	24.3	24.7	23.9
一次検診結果	異常認めず(人)	28,578	28,774	29,003	30,207	30,424	28,885
	要精検者数(人)	653	758	837	898	1,115	1,003
	要精検率(%)	2.23	2.57	2.80	2.89	3.54	3.36
精密検査	精検受診者数(人)	550	635	692	735	985	875
	精検受診率(%)	84.2	83.8	82.7	81.8	88.3	87.2
精検結果	乳がん又はがんの疑いのある者(人)	24	29	38	42	49	46
	乳がん発見率(%)	0.082	0.098	0.127	0.135	0.155	0.154
確定調査結果	確定がん数(人)	24	29	32	41	46	46
	確定がん率(%)	0.08	0.10	0.11	0.13	0.15	0.15

受診率・精検受診率



●- 受診率 ▲- 精検受診率

要精検率・がん発見率・確定がん率



■- 要精検率 ●- がん発見率 ●- 確定がん率

## (2) 平成16年度乳がん検診結果

### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数(人)	一次検診受診者数(人)	受診率(%)	一次検診結果		要精検率(%)
				要精検者数	異常認めず	
30～34	7,439	1,510	20.3	72	1,438	4.77
35～39	6,773	1,639	24.2	84	1,555	5.13
40～44	7,422	2,065	27.8	103	1,962	4.99
45～49	8,536	2,239	26.2	145	2,094	6.48
50～54	11,225	2,850	25.4	119	2,731	4.18
55～59	11,882	3,732	31.4	98	3,634	2.63
60～64	13,675	4,125	30.2	118	4,007	2.86
65～69	14,933	4,369	29.3	107	4,262	2.45
70～74	14,817	4,110	27.7	81	4,029	1.97
75～79	12,826	2,326	18.1	55	2,271	2.36
80歳以上	15,742	923	5.9	21	902	2.28
合計	125,270	29,888	23.9	1,003	28,885	3.36

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数(人)	精密検査 受診率(%)	精密検査結果				が ん 発見率(%)
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん	
30 ~ 34	62	86.1	25	36	0	1	0.066
35 ~ 39	78	92.9	30	46	0	2	0.122
40 ~ 44	84	81.6	30	54	0	0	0.000
45 ~ 49	133	91.7	36	86	2	9	0.491
50 ~ 54	100	84.0	33	61	0	6	0.211
55 ~ 59	81	82.7	35	41	0	5	0.134
60 ~ 64	102	86.4	52	43	1	6	0.170
65 ~ 69	91	85.0	50	37	0	4	0.092
70 ~ 74	75	92.6	47	24	0	4	0.097
75 ~ 79	51	92.7	27	19	0	5	0.215
80歳以上	18	85.7	10	7	0	1	0.108
合 計	875	87.2	375	454	3	43	0.154

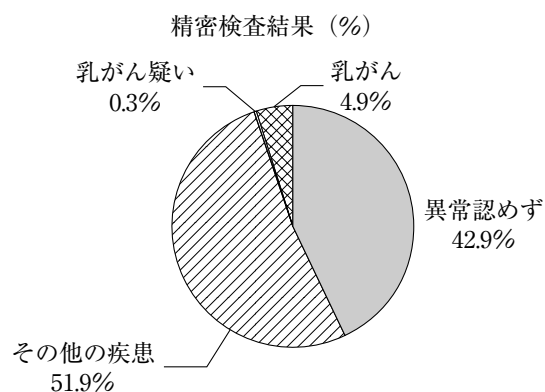
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診 機 関	一 次 検 診 受診者数(人)	一 次 検 診 結 果		要精検率(%)
		要 精 検 者 数	異 常 認 め ず	
医 師 雇 上	1,762	57	1,705	3.23
保 健 事 業 団	10,309	60	10,249	0.58
病 院	8,965	531	8,434	5.92
診 療 所	8,852	355	8,497	4.01
合 計	29,888	1,003	28,885	3.36

b. 精密検査結果

一次検 診機関	精密検査 受診者数 (人)	精密検査 受診率 (%)	精密検査結果				乳がん 発見率 (%)
			異常認め ず	その他 の疾病	乳がん 疑い	乳がん	
医 師 雇 上	51	89.5	24	24	0	3	0.170
保 健 事 業 団	57	95.0	20	30	0	7	0.068
病 院	445	83.8	196	233	0	16	0.178
診 療 所	322	90.7	135	167	3	17	0.226
合 計	875	87.2	375	454	3	43	0.154





4) 平成16年度乳がん検診受診状況

市町村名	対象者数(人)		受診者数		要精密検査者				検査結果				人員				
	A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P	Q=(N+O)/D
鳥取市	40,992	2,392	5,846	8,238	20.1	38	336	374	4.54	335	89.6	193	126	0	16	142	0.194
米子市	33,478	116	6,184	6,300	18.8	7	250	257	4.08	232	90.3	54	168	0	10	178	0.159
倉吉市	9,079	732	840	1,572	17.3	2	41	43	2.74	35	81.4	14	17	3	1	21	0.254
境港市	8,433	0	1,249	1,249	14.8	0	44	44	3.52	44	100.0	18	23	0	3	26	0.240
岩美町	2,377	0	750	750	31.6	0	5	5	0.67	5	100.0	0	1	0	4	5	0.533
八頭町	4,331	1,545	53	1,598	36.9	2	1	3	0.19	2	66.7	1	1	0	0	1	0.000
若桜町	1,088	421	0	421	38.7	14	0	14	3.33	13	92.9	10	3	0	0	3	0.000
智頭町	1,897	3	668	671	35.4	0	52	52	7.75	35	67.3	17	18	0	0	18	0.000
湯梨浜町	2,502	451	554	1,005	40.2	17	31	48	4.78	36	75.0	19	16	0	1	17	0.100
三朝町	979	489	0	489	49.9	1	0	1	0.20	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000
北条町	1,476	405	111	516	35.0	5	12	17	3.29	15	88.2	9	3	0	3	6	0.581
大栄町	1,551	931	0	931	60.0	5	0	5	0.54	4	80.0	0	3	0	1	4	0.107
琴浦町	5,209	1,604	18	1,622	31.1	10	0	10	0.62	8	80.0	2	5	0	1	6	0.062
南部町	1,306	288	404	692	53.0	0	12	12	1.73	12	100.0	4	8	0	0	8	0.000
伯耆町	2,538	851	295	1,146	45.2	3	29	32	2.79	22	68.8	6	15	0	1	16	0.087
日吉津村	441	123	31	154	34.9	1	4	5	3.25	5	100.0	3	2	0	0	2	0.000
大山町	4,079	872	295	1,167	28.6	8	13	21	1.80	17	81.0	5	11	0	1	12	0.086
日南町	1,649	492	34	526	31.9	0	2	2	0.38	2	100.0	2	0	0	0	0	0.000
日野町	865	356	73	429	49.6	4	10	14	3.26	13	92.9	8	5	0	0	5	0.000
江府町	1,000	0	412	412	41.2	0	44	44	10.68	39	88.6	9	29	0	1	30	0.243
合計	125,270	12,071	17,817	29,888	23.9	117	886	1,003	3.36	875	87.2	375	454	3	43	500	0.154
東部	50,685	4,361	7,317	11,678	23.0	54	394	448	3.84	390	87.1	221	149	0	20	169	0.171
中部	20,796	4,612	1,523	6,135	29.5	40	84	124	2.02	99	79.8	45	44	3	7	54	0.163
西部	53,789	3,098	8,977	12,075	22.4	23	408	431	3.57	386	89.6	109	261	0	16	277	0.133

5) マンモグラフィ併用検診について

平成16年度 マンモグラフィ併用検診実績

		受診者数 (人) A	受診者の 比 率 (%)	要精検者 (人) B	要精検率 (%) C = B/A	がん及び がん疑い (人) D	が ん 発 見 率 (%) E = D/A
岩 美 町	視触診検査	0	0.0	0	0.00	0	0.00
	マンモグラフィ併用検診	750	100.0	5	0.67	4	0.53
	計	750	100.0	5	0.67	4	0.53
伯 耆 町	視触診検査	851	74.3	3	0.35	0	0.00
	マンモグラフィ併用検診	295	25.7	29	9.83	0	0.00
	計	1,146	100.0	32	2.79	0	0.00
日 南 町	視触診検査	492	93.5	0	0.00	0	0.00
	マンモグラフィ併用検診	34	6.5	2	5.88	0	0.00
	計	526	100.0	2	0.38	0	0.00
日 野 町	視触診検査	356	83.0	4	1.12	0	0.00
	マンモグラフィ併用検診	73	17.0	10	13.70	0	0.00
	計	429	100.0	14	3.26	0	0.00
江 府 町	視触診検査	0	0.0	0	0.00	0	0.00
	マンモグラフィ併用検診	412	100.0	44	10.68	1	0.24
	計	412	100.0	44	10.68	1	0.24
合 計	視触診検査	1,699	52.1	7	0.41	0	0.00
	マンモグラフィ併用検診	1,564	47.9	90	5.75	5	0.32
	計	3,263	100.0	97	2.97	5	0.15

(3) 平成16年度乳がん検診発見乳がん患者確定調査結果

1) 登録届け出数 46

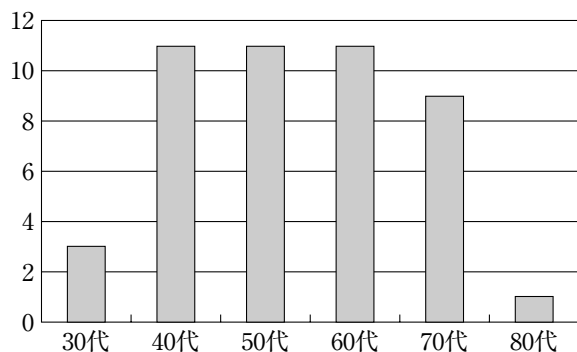
確定乳癌 46

鳥取市16、米子市10、倉吉市 4、境港市 3

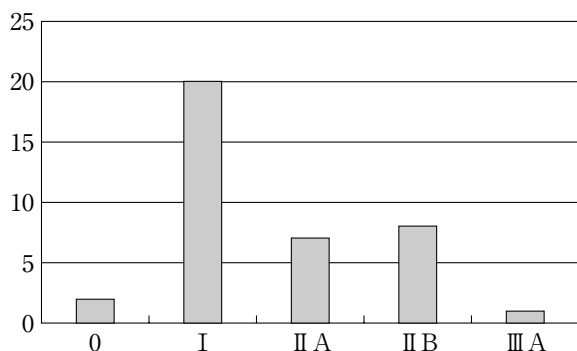
岩美町 4、北条町 3、湯梨浜町 1、大栄町 1、琴浦町 1

大山町 1、伯耆町 1、江府町 1

2) 年齢構成 平均年齢 58.1歳



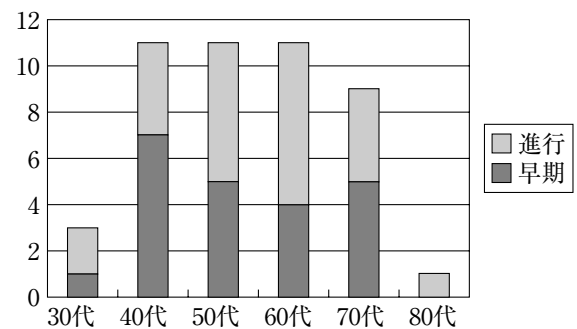
3) 病期分類



4) 年齢と病期分類

組織型 非浸潤癌 2 浸潤癌 44

早期癌 22 (マンモグラフィ発見 3)

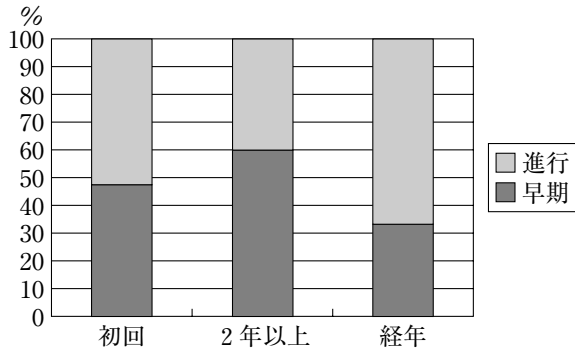


5) 検診歴

初回検診	19例
繰り返し検診 (2年以上)	15
(1年)	12

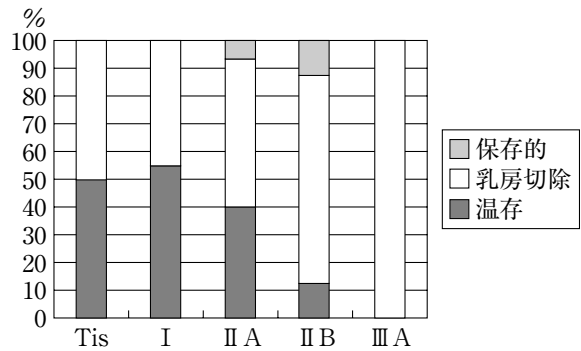
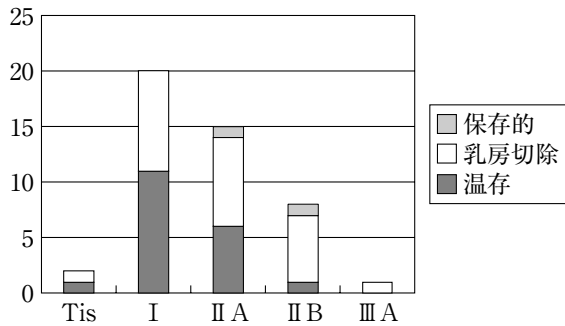
一次検診から二次検診までの期間	
1週間以内	28例
1ヶ月以内	11
3ヶ月以内	5
6ヶ月以上	1

進行度と検診歴



6) 手術術式

乳房切除術	23	不明 1
乳房温存術	20	
薬物療法	2	



まとめ

1. 平成16年度検診発見乳癌は46例で、マンモグラフィ単独による発見が3例あった。
2. 平均年齢は58.1歳。年齢による進行度に差は認めなかった。
3. 非浸潤癌2例で前年度の9例より減少した。
4. 温存術の割合が昨年と比べ低下した。
5. 進行度と検診歴の間には関連は認めなかったが、経年検診に進行例が多い傾向であった。

## 5. 大腸がん検診

### 1. 大腸がん検診実績

平成16年度の対象者数（40歳以上の者のうち職場等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数）は174,300人で、受診者数は54,170人（地域検診：24,650人、施設検診：29,520人）で、受診率は31.1%であった。このうち要精検者数は4,352人（地域検診：1,518人、施設検診：2,834人）、要精検率は8.0%、そのうち、精検受診者数は2,955人、精検受診率は67.9%であった。精検の結果、大腸がん123人、大腸がん疑い8人の合計131人が発見され、がん発見率は0.24%であった。

確定調査の結果、確定がんは119人で、がん発見率は0.22%である。受診者数、受診率、要精検率、がん発見率ともに平成15年度より減少したが、陽性反応適中度は差がなかった。

平成15年度までは受診者数、受診率ともに微増であったが、平成16年度は個人負担の増額等により受診者数、受診率ともに減少した市町村もあった。依然として倉吉市の受診率が15.6%と低率である。受診率及び精検受診率の向上が、死亡率の低下につながると思われるので、各市町村で受診勧奨に努めて頂きたい。また、平成15年度に比べ要精検率1.2ポイント、がん発見率0.04ポイント減少した。要精検率の減少が、がん発見率の減少につながったと思われる。要精検率は地域検診6.2%、医療機関検診9.6%で格差がある。

平成15年度から1日2個法を導入した13市町村（市町村合併により、市町村数に変動がある）は、受診者数43,042人で、受診率31.5%、要精検率8.1%、精検受診率67.7%、がん発見率0.256%、陽性反応適中度3.1%であった。同一市町村の前年度（1日2個法）は、受診者数44,104人で、受診率31.5%、要精検率9.6%、精検受診率65.4%、がん発見率0.288%、陽性反応適中度3.0%であった。同一市町村での平成16年度のがん発見率は、平成15年度より低かったが、陽性反応適中度は平成16年度の方が、平成15年度より高く感度はまざっていた。

平成16年度も2日法を実施した5市町村は、受診者数は7,021人で、受診率23.4%、要精検率8.2%、精検受診率68.3%、がん発見率0.214%、陽性反応適中度2.6%であった。同一市町村に2町加えた7市町村の前年度は、受診者数7,602人で、受診率26.8%、要精検率8.2%、精検受診率71.1%、がん発見率0.263%、陽性反応適中度3.2%であった。平成16年度の方が、がん発見率、陽性反応適中度とも低かった。

また、平成16年度に1日2個法を導入した13市町村と2日法を実施した5市町村を比較したところ、がん発見率は1日2個法が0.256%、2日法が0.214%で、1日2個法の方が高く、陽性反応適中度を比較しても1日2個法が3.1%、2日法が2.6%で、1日2個法の方が高かった。

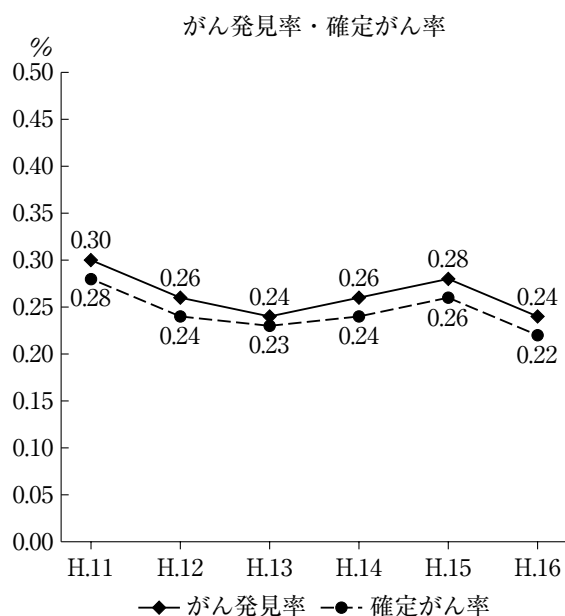
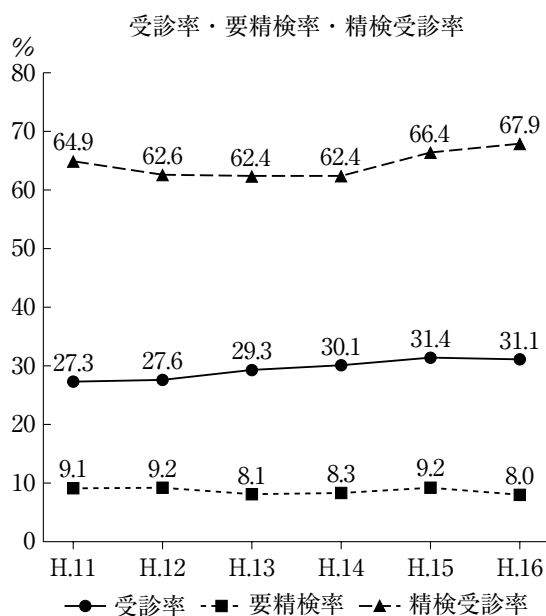
### 2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

平成16年度に発見された大腸がん及び大腸がん疑い131例（地域検診：41例、施設検診：90例）について確定調査を行った結果、119例が確定癌で、そのうちの早期がんは76例で、早期癌率は63.9%で、平成15年度全国集計とほぼ同様な結果であった。

- (1) 性及び年齢では男女とも60以上から多く発見された。
- (2) 部位では「R」と「S」が64.8%、早期癌では「I p」「I sp」「I s」が、進行癌では「2」が大半を占めていた。平成15年度全国平均とほぼ同様な結果であった。
- (3) 大きさは、10mm以下が24.4%であった。50mm以上の大きな症例も11.8%を占め、多く発見されている。また、EMRを施行し、大きさが記入していない症例が16例もあった。
- (4) Dukes分類は「A」が71.4%で、組織型分類は「Well」が58.0%であった。
- (5) 治療方法は外科手術（腹腔鏡下手術を含む）が62例（52.1%）、内視鏡治療は55例（46.2%）であった。
- (6) 逐年検診発見進行大腸癌は20例（東部8例、中部3例、西部9例）であった。

(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率の推移

区	分	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
一次検診	対象者数(人)	181,677	179,933	175,103	177,254	179,274	174,300
	受診者数(人)	49,544	49,671	51,295	53,336	56,218	54,170
	受診率(%)	27.3	27.6	29.3	30.1	31.4	31.1
一次検診結果	異常認めず(人)	45,046	45,108	47,141	48,931	51,024	49,818
	要精検者数(人)	4,498	4,563	4,154	4,405	5,194	4,352
	要精検率(%)	9.1	9.2	8.1	8.3	9.2	8.0
精密検査	精検受診者数(人)	2,920	2,858	2,593	2,767	3,449	2,955
	精検受診率(%)	64.9	62.6	62.4	62.4	66.4	67.9
精密検査結果	大腸がんの者又は大腸がんの疑いのある者(人)	147	127	124	138	157	131
	大腸がん発見率(%)	0.30	0.26	0.24	0.26	0.28	0.24
確定調査結果	確定がん数(人)	138	117	118	127	147	119
	確定がん率(%)	0.28	0.24	0.23	0.24	0.26	0.22



## (2) 平成16年度大腸がん検診結果

### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数(人)		一 次 検 診 受診者数(人)		受 診 率(%)		一 次 検 診 結 果				要精検率(%)	
	男	女	男	女	男	女	要精検者数		異常認めず		男	女
							男	女	男	女		
40～44歳	4,093	6,626	647	1,268	15.8	19.1	38	55	609	1,213	5.9	4.3
45～49歳	5,168	7,397	809	1,562	15.7	21.1	44	79	765	1,483	5.4	5.1
50～54歳	7,021	10,229	1,170	2,465	16.7	24.1	87	129	1,083	2,336	7.4	5.2
55～59歳	7,551	10,715	1,690	3,665	22.4	34.2	139	194	1,551	3,471	8.2	5.3
60～64歳	9,396	13,006	2,643	5,046	28.1	38.8	226	320	2,417	4,726	8.6	6.3
65～69歳	10,577	14,494	3,596	5,964	34.0	41.1	367	409	3,229	5,555	10.2	6.9
70～74歳	10,404	14,644	4,218	6,374	40.5	43.5	449	445	3,769	5,929	10.6	7.0
75～79歳	7,816	12,417	3,327	4,767	42.6	38.4	383	395	2,944	4,372	11.5	8.3
80歳以上	6,812	15,934	2,034	2,925	29.9	18.4	257	336	1,777	2,589	12.6	11.5
計	68,838	105,462	20,134	34,036	29.2	32.3	1,990	2,362	18,144	31,674	9.9	6.9
合 計	174,300		54,170		31.1		4,352		49,818		8.0	

### 2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精 密 検 査 受診者数(人)		精 密 検 査 受診率(%)		精 密 検 査 結 果								大 腸 が ん 発見率(%)	
	男	女	男	女	異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大 腸 が ん		男	女
					男	女	男	女	男	女	男	女		
40～44歳	21	32	55.3	58.2	11	22	10	8	0	0	0	2	0.000	0.158
45～49歳	23	47	52.3	59.5	9	23	14	24	0	0	0	0	0.000	0.000
50～54歳	43	84	49.4	65.1	13	50	30	32	0	0	0	2	0.000	0.081
55～59歳	83	141	59.7	72.7	28	82	52	55	0	0	3	4	0.178	0.109
60～64歳	155	256	68.6	80.0	51	119	97	127	0	2	7	8	0.265	0.198
65～69歳	255	319	69.5	78.0	77	131	162	170	1	0	15	18	0.445	0.302
70～74歳	311	324	69.3	72.8	78	145	216	167	2	1	15	11	0.403	0.188
75～79歳	257	265	67.1	67.1	84	113	159	147	0	1	14	4	0.421	0.105
80歳以上	165	174	64.2	51.8	45	71	105	97	1	0	14	6	0.737	0.205
計	1,313	1,642	66.0	69.5	396	756	845	827	4	4	68	55	0.358	0.173
合 計	2,955		67.9		1,152		1,672		8		123		0.242	

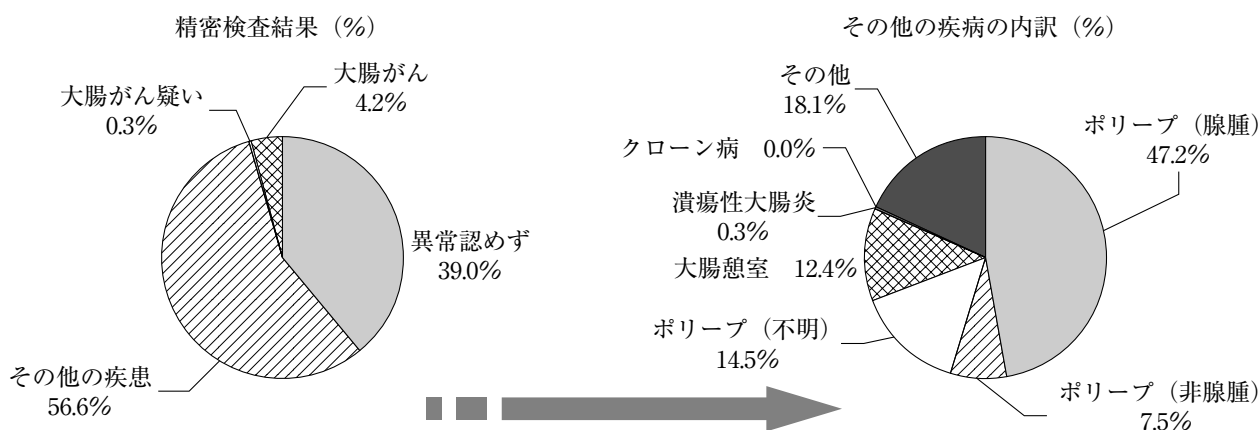
### 3) 検診機関別

#### a. 一次検診結果

一次検診 機 関	一次検診受診者数 (人)		一 次 検 診 結 果				要精検率 (%)	
	男	女	要 精 検 者 数		異 常 認 め ず		男	女
			男	女	男	女		
保健事業団	8,617	13,961	625	756	7,992	13,205	7.3	5.4
ファルコ	405	517	46	26	359	491	11.4	5.0
中国労働 衛生協会	609	541	40	25	569	516	6.6	4.6
病 院	2,951	4,691	332	349	2,619	4,342	11.3	7.4
診 療 所	7,552	14,326	947	1,206	6,605	13,120	12.5	8.4
計	20,134	34,036	1,990	2,362	18,144	31,674	9.9	6.9
合 計	54,170		4,352		49,818		8.0	

b. 精密検査結果

一次検診 機関	精密検査 受診者数(人)		精密検査 受診率(%)		精密検査結果										
	男	女	男	女	異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん		大腸がん 発見率(%)		
					男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
保健事業団	426	569	68.2	75.3	123	285	282	265	1	0	20	19	0.244	0.136	
ファルコ	39	23	84.8	88.5	23	11	15	12	0	0	1	0	0.247	0.000	
中国労働 衛生協会	25	17	62.5	68.0	9	9	16	8	0	0	0	0	0.000	0.000	
<b>集団検診小計</b>	<b>490</b>	<b>609</b>	<b>68.9</b>	<b>75.5</b>	<b>155</b>	<b>305</b>	<b>313</b>	<b>285</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>21</b>	<b>19</b>	<b>0.228</b>	<b>0.127</b>	
病院	199	212	59.9	60.7	53	105	134	99	0	0	12	8	0.407	0.171	
診療所	624	821	65.9	68.1	188	346	398	443	3	4	35	28	0.503	0.223	
<b>医療機関小計</b>	<b>823</b>	<b>1,033</b>	<b>64.3</b>	<b>66.4</b>	<b>241</b>	<b>451</b>	<b>532</b>	<b>542</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>47</b>	<b>36</b>	<b>0.476</b>	<b>0.210</b>	
計	1,313	1,642	66.0	69.5	396	756	845	827	4	4	68	55	0.358	0.173	
合計	2,955		67.9		1,152		1,672		8		123		0.242		





4) 平成16年度大腸がん検診受診状況 ※左側に○のある市町村は、2日法の実施市町村

a. 市町村別

市町村名	対象者数(人)		受診者数		要精密検査		精密検査者		精密検査結果別人員		がん発見率(%) Q = (N+O)/D						
	A	B	C	D = B + C	E = D / A	F	G	H = F + G	I = H / D	J		K = J / H	L	M	N	O	P
鳥取市	53,523	4,370	12,328	16,698	31.2	265	1,043	1,308	7.8	839	64.1	299	500	6	34	540	0.240
米子市	46,352	922	11,825	12,747	27.5	72	1,165	1,237	9.7	816	66.0	350	427	0	39	466	0.306
倉吉市	14,226	1,550	672	2,222	15.6	109	100	209	9.4	148	70.8	49	92	1	6	99	0.315
境港市	11,905	0	2,379	2,379	20.0	0	280	280	11.8	237	84.6	53	176	0	8	184	0.336
岩美町	2,982	1,145	247	1,392	46.7	63	19	82	5.9	68	82.9	35	27	0	6	33	0.431
八頭町	6,824	3,034	104	3,138	46.0	164	2	166	5.3	124	74.7	52	66	0	6	72	0.191
若桜町	1,330	525	247	772	58.0	22	19	41	5.3	34	82.9	16	17	0	1	18	0.130
智頭町	2,894	791	300	1,091	37.7	31	29	60	5.5	46	76.7	21	22	1	2	25	0.275
湯梨浜町	3,307	1,259	271	1,530	46.3	77	62	139	9.1	88	63.3	36	51	0	1	52	0.065
三朝町	1,725	840	0	840	48.7	37	0	37	4.4	20	54.1	6	12	0	2	14	0.238
北条町	2,325	547	206	753	32.4	35	45	80	10.6	42	52.5	14	27	0	1	28	0.133
大栄町	2,549	1,556	0	1,556	61.0	117	0	117	7.5	85	72.6	42	42	0	1	43	0.064
琴浦町	7,769	1,965	32	1,997	25.7	128	6	134	6.7	95	70.9	44	46	0	5	51	0.250
南部町	1,774	418	703	1,121	63.2	27	49	76	6.8	39	51.3	19	19	0	1	20	0.089
伯耆町	3,440	1,568	0	1,568	45.6	111	0	111	7.1	74	66.7	31	41	0	2	43	0.128
日吉津村	417	338	0	338	81.1	16	0	16	4.7	12	75.0	5	7	0	0	7	0.000
大山町	5,769	1,806	105	1,911	33.1	120	9	129	6.8	94	72.9	37	54	0	3	57	0.157
日南町	2,602	862	101	963	37.0	55	6	61	6.3	43	70.5	14	25	0	4	29	0.415
日野町	1,385	493	0	493	35.6	37	0	37	7.5	24	64.9	15	8	0	1	9	0.203
江府町	1,202	661	0	661	55.0	32	0	32	4.8	27	84.4	14	13	0	0	13	0.000
合計	174,300	24,650	29,520	54,170	31.1	1,518	2,834	4,352	8.0	2,955	67.9	1,152	1,672	8	123	1,803	0.242
東部	67,553	9,865	13,226	23,091	34.2	545	1,112	1,657	7.2	1,111	67.0	423	632	7	49	688	0.243
中部	31,901	7,717	1,181	8,898	27.9	503	213	716	8.0	478	66.8	191	270	1	16	287	0.191
西部	74,846	7,068	15,113	22,181	29.6	470	1,509	1,979	8.9	1,366	69.0	538	770	0	58	828	0.261

b. 一次検診方法別

区分	対象者数			受診者数			要精密検査			検査者			精密検査結果				人員	
	地域 検 B	地域 診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	地域 診 F	施設 診 G	計 H=F+G	要精密 率 (%) I=H/D	精密 受診者数 J	精密 検査 率 (%) K=J/H	異 認め L	その 他の 疾患 M	がん 疑い N	がん が O	異 常 者 計 P	がん 発見 率 (%) Q=(N+O)/D		
2個法(15)	18,539	28,610	47,149	32.3	1,092	2,683	3,775	8.0	2,561	67.8	988	1,457	7	109	1,573	0.246		
2日法(5)	6,111	910	7,021	24.8	426	151	577	8.2	394	68.3	164	215	1	14	230	0.214		
合計	24,650	29,520	54,170	31.1	1,518	2,834	4,352	8.0	2,955	67.9	1,152	1,672	8	123	1,803	0.242		
<b>2個法</b>																		
東部(5)	9,865	13,226	23,091	34.2	545	1,112	1,657	7.2	1,111	67.0	423	632	7	49	688	0.243		
中部(2)	2,099	271	2,370	47.1	114	62	176	7.4	108	61.4	42	63	0	3	66	0.127		
西部(8)	6,575	15,113	21,688	29.5	433	1,509	1,942	9.0	1,342	69.1	523	762	0	57	819	0.263		
<b>2日法</b>																		
東部(0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中部(4)	5,618	910	6,528	24.3	389	151	540	8.3	370	68.5	149	207	1	13	221	0.214		
西部(1)	493	0	493	35.6	37	0	37	7.5	24	64.9	15	8	0	1	9	0.203		

平成15年度実績との比較

1 平成16年度 2日法 (東部：なし、中部：倉吉市・北条町・琴浦町、西部：日野町)

地区	受診者数	受診率	要精密検査者数	要精密検査率	精密検査者数	精密検査率	精密検査結果内訳			がん発見率	陽性反応適中度	
							精密検査率	精密検査者数	精密検査率			がん発見率
東部 (0市町村)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中部 (4市町)	6,528	23.5	540	8.3	370	68.5	1	13	207	149	0.214	2.6
西部 (1町)	493	21.2	37	7.5	24	64.9	0	1	8	15	0.203	2.7
合計	7,021	23.4	577	8.2	394	68.3	1	14	215	164	0.214	2.6

※市町村合併により、市町村数には変動がある。

2 平成15年度 2日法

地区	受診者数	受診率	要精検者数	精検受診者数	精検受診率	精密検査結果内訳			がん発見率	陽性反応適中度
						がん疑が	人	その他の疾病 異常認めず		
東部 (0市町村)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中部 (6市町)	7,027	26.1	582	417	71.6	0	19	211	187	0.270
西部 (1町)	575	40.0	44	28	63.6	0	1	11	16	0.174
合計 (7市町村)	7,602	26.8	626	445	71.1	0	20	222	203	0.263

※H16から1日2個法を導入した市町村については実績から除いている。

1 平成16年度 1日2個法 (東部：鳥取・岩美・八頭・若桜、中部：湯梨浜・三朝、西部：米子・境港・南部・日吉津・大山・日南・江府)

地区	受診者数	受診率	要精検者数	精検受診者数	精検受診率	精密検査結果内訳			がん発見率	陽性反応適中度
						がん疑が	人	その他の疾病 異常認めず		
東部 (4市町)	21,472	33.8	1,561	1,048	67.1	6	47	600	395	0.247
中部 (2町)	1,961	47.1	148	87	58.8	0	3	53	31	0.153
西部 (7市町村)	19,609	28.4	1,789	1,234	69.0	0	54	702	478	0.275
合計 (13市町村)	43,042	31.5	3,498	2,369	67.7	6	104	1,355	904	0.256

※市町村合併により、市町村数には変動がある。また、旧市町村で平成15年度は2日法であったものは除いている。

2 平成15年度 1日2個法

地区	受診者数	受診率	要精検者数	精検受診者数	精検受診率	精密検査結果内訳			がん発見率	陽性反応適中度
						がん疑が	人	その他の疾病 異常認めず		
東部 (13市町村)	22,105	34.2	1,971	1,254	63.6	2	64	668	520	0.299
中部 (3町村)	1,982	46.8	168	118	70.2	0	3	57	58	0.151
西部 (10市町村)	20,017	28.1	2,083	1,390	66.7	5	53	756	576	0.290
合計 (26市町村)	44,104	31.5	4,222	2,762	65.4	7	120	1,481	1,154	0.288

(3) 平成16年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地 域 検 診				施 設 検 診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報 告 癌	19	13	9	41	37	4	49	90	56	17	58	131
確 定 癌	16	12	8	36	33	3	47	83	49	15	55	119
腺 腫	3	1	0	4	3	0	1	4	6	1	1	8
そ の 他	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1
調 査 中	0	0	1	1	1	0	1	2	1	0	2	3

表2 性及び年齢

年 齢		40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計
地 域	男	0	1	0	0	1	3	5	5	5	20
	女	1	0	0	0	3	3	5	3	1	16
	計	1	1	0	0	4	6	10	8	6	36
施 設	男	0	0	0	4	5	10	12	7	9	47
	女	0	0	2	4	7	11	2	4	6	36
	計	0	0	2	8	12	21	14	11	15	83
計	男	0	1	0	4	6	13	17	12	14	67
	女	1	0	2	4	10	14	7	7	7	52
総 計		1	1	2	8	16	27	24	19	21	119

表3 部位

	地 域 検 診				施 設 検 診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0 ( 0.0)
R	3	7	1	11	10	1	9	20	31 (26.1)
S	4	3	6	13	10	2	21	33	46 (38.7)
D	2	1	0	3	3	0	4	7	10 ( 8.4)
T	2	0	0	2	3	0	7	10	12 (10.1)
A	3	0	1	4	6	0	4	10	14 (11.8)
C	2	1	0	3	1	0	2	3	6 ( 5.0)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0 ( 0.0)
計	16	12	8	36	33	3	47	83	119 (100.0)

表4 大きさ

大きさ (mm)	地 域				施 設				総 計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0～10	5	4	1	10	8	1	10	19	29 (24.4)
11～20	2	2	2	6	6	1	12	19	25 (21.0)
21～50	7	4	2	13	10	0	12	22	35 (29.4)
51～	1	2	1	4	3	0	7	10	14 (11.8)
不明	1	0	2	3	6	1	6	13	16 (13.4)
計	16	12	8	36	33	3	47	83	119 (100)

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	22	54	76 (63.9)
1	1	5	6 ( 5.0)
2	12	22	34 (28.6)
3	0	1	1 ( 0.8)
4	0	0	0 ( 0.0)
5	1	1	2 ( 1.7)
不明	0	0	0 ( 0.0)
計	36	83	119(100.0)

表6 0型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	1	15	16 (21.1)
I sp	12	20	32 (42.1)
I s	5	9	14 (18.4)
II a	3	5	8 (10.5)
II a + II c	0	3	3 ( 3.9)
II b	0	0	0 ( 0.0)
II c	1	2	3 ( 3.9)
III	0	0	0 ( 0.0)
その他	0	0	0 ( 0.0)
不明	0	0	0 ( 0.0)
計	22	54	76 (100.0)

表7 深達度

深達度	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	4	7	2	15	1	19	48 (40.3)
sm	5	0	4	8	0	11	28 (23.5)
不明	0	0	0	0	0	0	0 ( 0.0)
小計	9	7	6	23	1	30	76 (63.9)
mp	2	2	0	3	2	3	12 (10.1)
ss	3	1	2	6	0	8	20 (16.8)
se	2	1	0	1	0	3	7 ( 5.9)
si	0	1	0	0	0	3	4 ( 3.4)
不明	0	0	0	0	0	0	0 ( 0.0)
計	16	12	8	33	3	47	119(100.0)

表 8 Dukes分類

Dukes分類	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	10	10	6	25	2	32	85 (71.4)
B	4	1	0	2	0	8	15 (12.6)
C	1	1	2	6	1	5	16 (13.4)
D	1	0	0	0	0	2	3 ( 2.5)
不明	0	0	0	0	0	0	0 ( 0.0)
計	16	12	8	33	3	47	119(100.0)

表 9 組織型分類

組織型	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	8	7	4	19	3	28	69 (58.0)
Mod	7	4	3	12	0	14	40 (33.6)
Por	0	0	1	2	0	3	6 ( 5.0)
Muc	1	1	0	0	0	0	2 ( 1.7)
不明	0	0	0	0	0	2	2 ( 1.7)
計	16	12	8	33	3	47	119(100.0)

表10 治療法

治療方法	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外科手術	11	5	3	16	2	25	62 (52.1)
内視鏡治療	5	7	5	15	1	22	55 (46.2)
その他不明	0	0	0	2	0	0	2 ( 1.7)
計	16	12	8	33	3	47	119(100.0)

表11 平成16年度逐年検診発見進行癌

検診方式	地区	No	年齢	性	部位	大きさ	深達度	肉眼型	組織型	便潜血結果	前年度検査結果		
											検診方式	便潜血結果	精密結果
地域検診	東部	1	73	F	D	30mm	se	2	Wel	++	地域検診	-・-	
		2	75	M	C	25mm	mp	5	Mod	++	地域検診	-・-	
		3	68	M	A	40mm	se	2	Mod	++	地域検診	+・+	腺腫
		4	80	M	R	25mm	mp	2	Mod	++	地域検診	-・-	
	中部	5	68	M	R	74mm	si	2	Muci	-+	地域検診	-・-	
		6	75	M	R	20mm	mp	2	Wel	++	地域検診	+・+	未受診
		7	70	F	C	32mm	mp	1	Mod	++	地域検診	-・-	
	西部	8	81	M	A	60mm	ss	2	Por	++	地域検診	-・-	
		9	71	M	S	32mm	ss	2	Mod	++	地域検診	+・+	未受診
施設検診	東部	10	66	F	S	28mm	ss	2	Mod	++	未受診		
		11	72	M	C	61mm	ss	2	Wel	++	未受診		
		12	61	M	R	42mm	ss	2	Mod	++	地域検診	+・+	未受診
		13	68	M	R	43mm	mp	2	Mod	++	施設検診	-・+	未受診
	西部	14	80	M	S	30mm	se	2	Mod	++	未受診		
		15	72	F	A	62mm	ss	2	Por	++	施設検診	-・-	
		16	67	M	C	75mm	ss	2	Mod	++	施設検診	+・+	未受診
		17	72	M	T	45mm	si	2	Mod	-+	施設検診	-・-	
		18	57	F	D	55mm	se	1	Mod	++	施設検診	-・-	
		19	82	F	D	20mm	ss	2	Mod	++	施設検診	-・-	
20	73	M	S	19mm	mp	5	Wel	++	施設検診	-・-			

## 6. 肝 臓 が ん 検 診

### 1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H 7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40—70歳の5歳刻み）+節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10—13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	H14—と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）

### 2. 肝臓がん検診実績

#### 1) 平成16年度肝臓がん検診実績について

平成16年度は17市町村で実施し、対象者数54,924人のうち、受診者数は5,554人で、受診率は10.1%であった。検査の結果、HBs抗原のみ陽性者は121人、HCV抗体のみ陽性者は50人、HBs抗原・HCV抗体ともに陽性者が6人であった。よって、HBs抗原陽性率2.3%、HCV抗体陽性率1.0%であった。前年度と同様な結果であった。

要精検者177人のうち精検受診者は97人であり、精検受診率は54.8%であった。他のがん検診と比較しても、精検受診率が非常に低い。特に病院で一次検診を受診した人の精検受診率が17.9%と非常に低い。

基本健康診査における肝炎ウイルス検査は16市町村が実施、単県の肝臓がん検診は9市町村が実施。

#### 2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の状況について

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は16市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導 対象者	定期検査 受診者数	定 期 検 査 結 果			
			慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,078	480	98 (20.4%)	5 (1.0%)	2 (0.4%)	2 (0.4%)
C型肝炎ウイルス陽性者	1,125	604	304 (50.3%)	28 (4.6%)	5 (0.8%)	10 (1.7%)



3) 平成7～16年度の10年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において、市町村から報告のあった対象者数192,315人に対し、受診者数88,834人、推計受診率46.2%である。そのうちHBs抗原陽性者は2,280人(2.57%)、HCV抗体陽性者は3,361人(3.78%)であった。HCV抗体陽性率は60歳以上が高く、HBs抗原陽性率は40～54歳が高い傾向は例年と同様であった。

### 3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

- 1) 平成16年度肝臓がん検診からはがん及びがん疑いが3名発見され、そのうち確定癌は1名であった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、がん及びがん疑いの者が18名発見され、そのうち5名は過去の検診、定期検査で既にかんと診断されていた。残り13名の確定調査を行った結果、肝臓癌が8名、胃癌による転移性肝癌が1名、過去に肝臓癌が見つかり、治療されていたが、現在、癌は見つかっていないものが2名であった。
- 2) 平成7年～15年度肝臓がん検診発見がん患者のうち、17例が確定癌であり、そのうち16例は死亡、生存中は1例であった。また、平成10～15年度定期検査確定がんが40例で、そのうち21例(他病死を含む)が死亡、19例は生存中である。

(1) 平成16年度肝臓がん検診結果(基本健康診査における肝炎ウイルス検査十県単独肝臓がん検診)

1) 事業別結果

a. 一次検診 実施市町村数=17 未実施市町村数=3

区分	対象者数	受診者数	受診率	HBs陽性者	HCV陽性者	HBs・HCVともに陽性者	HBs陽性率	HCV陽性率
肝炎ウイルス検査(国庫)	41,309	4,975	12.0%	102	42	6	2.2%	1.0%
肝臓がん検診(単県)	13,615	579	4.3%	19	8	0	3.3%	1.4%
合計	54,924	5,554	10.1%	121	50	6	2.3%	1.0%

※各陽性者数にはB型、C型ともに陽性である者が含まれるため、各陽性者数の合計は下段の要精検者数に一致しない。

b. 精密検査

区分	要精検者数	精検受診者数	精検受診率	肝臓がん	肝臓がん疑い	がん発見率
肝炎ウイルス検査(国庫)	150	80	53.3%	2	1	0.06%
肝臓がん検診(単県)	27	17	63.0%	0	0	0.00%
合計	177	97	54.8%	2	1	0.05%

2) 一次検診結果(年齢階級別)

年齢	一次検診受診者数(人)		一次検診結果								HBs抗原陽性率(%)		HCV抗体陽性率(%)	
			HBs抗原のみ陽性		HCV抗体のみ陽性		HBs・HCV陽性		異常なし		男	女	男	女
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	122	380	2	6	0	1	0	0	120	373	1.6	1.6	0.0	0.3
45～49歳	73	286	2	4	0	0	0	0	71	282	2.7	1.4	0.0	0.0
50～54歳	151	370	5	7	1	0	1	0	144	363	4.0	1.9	1.3	0.0
55～59歳	229	505	5	9	2	5	1	1	221	490	2.6	2.0	1.3	1.2
60～64歳	332	584	13	13	6	2	0	0	313	569	3.9	2.2	1.8	0.3
65～69歳	395	569	14	13	3	6	0	0	378	550	3.5	2.3	0.8	1.1
70～74歳	468	631	13	10	8	6	1	1	446	614	3.0	1.7	1.9	1.1
75～79歳	115	143	0	1	1	3	0	0	114	139	0.0	0.7	0.9	2.1
80歳以上	75	126	1	3	0	6	0	1	74	116	1.3	3.2	0.0	5.6
計	1,960	3,594	55	66	21	29	3	3	1,881	3,496	3.0	1.9	1.2	0.9
合計	5,554		121		50		6		5,377		2.3		1.0	



4) 検診機関別

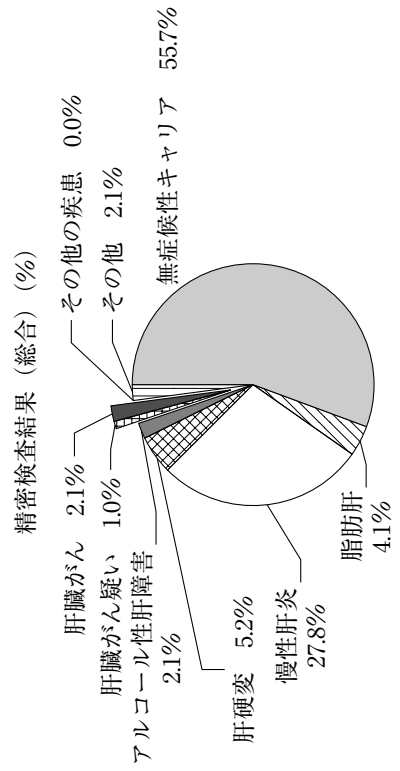
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数(人)		一次検診結果						HBs抗原陽性率 (%)		HCV抗体陽性率 (%)			
	男	女	HBs抗原のみ陽性		HCV抗体のみ陽性		HBs・HCV陽性		異常なし	男	女	男	女	
			男	女	男	女	男	女						
直営	31	23	1	0	0	0	0	0	23	3.2	0.0	0.0	0.0	
保健事業団	422	575	17	14	6	7	0	0	554	4.0	2.4	1.4	1.2	
中国労働衛生協会	32	63	3	3	0	0	0	0	60	9.4	4.8	0.0	0.0	
病院	341	497	9	9	3	3	1	326	484	3.5	2.0	1.8	0.8	
診療所	1,134	2,436	25	40	12	19	2	1,097	2,375	2.2	1.7	1.1	0.9	
計	1,960	3,594	55	66	21	29	3	1,881	3,496	3.0	1.9	1.2	0.9	
合計	5,554		121		50		6		5,377		2.3		1.0	

b. 精密検査結果

一次検診 機関	区分	精密検査者 受診(人)		精密検査結果														肝臓がん 発見率 (%)									
		男	女	健康							検査対象者							その他		男	女						
				無症候性キヤリア	脂肪肝		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害	肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病											
					男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女										
直営	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
保業団	B型陽性	14	5	4	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	5	2	0	0	0	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	19	7	4	0	1	4	2	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国労働 衛生協会	B型陽性	3	3	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	3	3	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
病院	B型陽性	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	2	3	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
診療所	B型陽性	13	25	8	16	0	2	2	5	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	5	17	1	7	0	0	3	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	18	42	9	23	0	2	5	14	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	B型陽性	32	34	22	23	0	4	5	5	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	10	21	1	8	0	0	5	12	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	42	55	23	31	0	4	10	17	4	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	B型陽性	66	66	45	45	4	4	10	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	C型陽性	31	31	9	9	0	0	17	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	97	97	54	54	4	4	27	5	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
																										0.054	

※「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。



5) 平成16年度肝臓がん検診実施状況（基本健康診査における肝炎ウイルス検査+肝臓がん検診）  
 実施市町村数=17 未実施市町村数=3

市町村名	対象者数		受診者数		陽性者数		HBs抗原陽性率 (%) I = (F+H)/D	HCV抗体陽性率 (%) J = (G+H)/D	精査受診率 (%) L = (K+G+H)/D	精密検査結果		P	Q	発見率 (%) R = (P+Q)/D	
	A	B	C	D = B+C	E = D/A	F				G	H				K
鳥取市	17,878	131	812	943	5.3	21	9	1	2.3	1.1	18	9	9	0	0.000
米子市	7,313	0	2,500	2,500	34.2	44	22	2	1.8	1.0	36	15	13	2	0.080
倉吉市	304	119	0	119	39.1	6	2	0	5.0	1.7	5	2	2	0	0.000
境港市	11,905	0	478	478	4.0	7	3	0	1.5	0.6	9	5	4	0	0.209
岩美町	1,210	67	0	67	5.5	2	0	0	3.0	0.0	1	1	1	0	0.000
八頭町	5,810	221	15	236	4.1	7	4	0	3.0	1.7	7	2	2	0	0.000
若桜町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
智頭町	1,179	9	51	60	5.1	3	0	0	5.0	0.0	0	0	0	0	0.000
湯梨浜町	2,813	111	417	528	18.8	9	4	3	2.3	1.3	4	1	1	0	0.000
三朝町	49	16	0	16	32.7	1	0	0	6.3	0.0	0	0	0	0	0.000
北条町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大栄町	496	22	0	22	4.4	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0	0.000
琴浦町	3,680	237	0	237	6.4	11	4	0	4.6	1.7	11	6	6	0	0.000
南部町	212	52	50	102	48.1	2	0	0	2.0	0.0	0	0	0	0	0.000
伯耆町	111	19	0	19	17.1	0	1	0	0.0	5.3	0	0	0	0	0.000
日吉津村	41	3	0	3	7.3	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0	0.000
大山町	434	41	85	126	29.0	2	1	0	1.6	0.8	0	0	0	0	0.000
日南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日野町	1,385	4	0	4	0.3	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0	0.000
江府町	104	94	0	94	90.4	6	0	0	6.4	0.0	6	2	2	0	0.000
合計	54,924	1,146	4,408	5,554	10.1	121	50	6	2.3	1.0	97	43	40	2	0.054
東部	26,077	428	878	1,306	5.0	33	13	1	2.6	1.1	26	12	12	0	0.000
中部	7,342	505	417	922	12.6	27	10	3	3.3	1.4	20	9	9	0	0.000
西部	21,505	213	3,113	3,326	15.5	61	27	2	1.9	0.9	51	22	19	2	0.090

## (2) 基本健康診査における肝炎ウイルス検査

### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	受診者数 (人)		HBs抗原 のみ陽性		HCV抗体 のみ陽性		HBs・HCV 陽 性		異常なし		HBs抗原 陽性率 (%)		HCV抗体 陽性率 (%)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44	113	347	2	6	0	1	0	0	111	340	1.8	1.7	0.0	0.3
45～49	65	263	2	4	0	0	0	0	63	259	3.1	1.5	0.0	0.0
50～54	122	324	4	7	1	0	1	0	116	317	4.1	2.2	1.6	0.0
55～59	188	460	4	8	2	5	1	1	181	446	2.7	2.0	1.6	1.3
60～64	253	522	6	10	3	2	0	0	244	510	2.4	1.9	1.2	0.4
65～69	337	535	11	11	2	6	0	0	324	518	3.3	2.1	0.6	1.1
70～74	430	614	13	10	7	6	1	1	409	597	3.3	1.8	1.9	1.1
75～79	97	123	0	1	1	1	0	0	96	121	0.0	0.8	1.0	0.8
80歳以上	67	115	1	2	0	5	0	1	66	107	1.5	2.6	0.0	5.2
計	1,672	3,303	43	59	16	26	3	3	1,610	3,215	2.8	1.9	1.1	0.9
合 計	4,975		102		42		6		4,825		2.2		1.0	





### (3) 県単独肝臓がん検診

#### 1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	受診者数 (人)		HBs抗原 のみ陽性		HCV抗体 のみ陽性		HBs・HCV ともに陽性		異常なし		HBs抗原 陽性率(%)		HCV抗体 陽性率(%)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44	9	33	0	0	0	0	0	0	9	33	0.0	0.0	0.0	0.0
45～49	8	23	0	0	0	0	0	0	8	23	0.0	0.0	0.0	0.0
50～54	29	46	1	0	0	0	0	0	28	46	3.4	0.0	0.0	0.0
55～59	41	45	1	1	0	0	0	0	40	44	2.4	2.2	0.0	0.0
60～64	79	62	7	3	3	0	0	0	69	59	8.9	4.8	3.8	0.0
65～69	58	34	3	2	1	0	0	0	54	32	5.2	5.9	1.7	0.0
70～74	38	17	0	0	1	0	0	0	37	17	0.0	0.0	2.6	0.0
75～79	18	20	0	0	0	2	0	0	18	18	0.0	0.0	0.0	10.0
80歳以上	8	11	0	1	0	1	0	0	8	9	0.0	9.1	0.0	9.1
計	288	291	12	7	5	3	0	0	271	281	4.2	2.4	1.7	1.0
合 計	579		19		8		0		552		3.3		1.4	

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	区分	精密検査受診者数(人)		精密検査結果												肝臓が見える率(%)					
		男	女	健康診断名						結果						男	女				
				脂肪肝	慢性肝炎	肝硬変	アルコール性肝障害	肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病									
								男	女	男	女	男	女	男	女						
40~44	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
45~49	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50~54	B型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55~59	B型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60~64	B型陽性	5	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	7	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
65~69	B型陽性	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70~74	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75~79	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80歳以上	B型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	B型陽性	9	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	14	3	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	B型陽性	11	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	17	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

(4) 平成7～16年度肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者の定期検査結果

1) 平成16年度B型肝炎ウイルス陽性者年代別定期検査結果報告

年齢	健康指導対象者数 (平成16年4月1日現在の実人数)		受診者数 (平成17年3月31日現在の実人数)		定期検査結果											
	健康指導対象者数		受診者数		健康指導対象者診断名						検査結果					
	健康指導対象者数		受診者数		慢性肝炎		肝硬変		アルーコラー肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の病	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44	19	20	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49	27	42	3	16	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
50～54	55	71	11	33	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59	50	107	10	46	3	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
60～64	58	115	11	50	3	6	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
65～69	54	99	14	36	3	11	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1
70～74	52	96	14	39	2	6	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1
75～79	37	79	19	24	1	6	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0
80歳以上	32	65	15	22	1	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
計	384	694	98	240	36	62	2	3	1	0	1	1	1	2	4	4
合計	1,078		338		21		98		5		2		2		6	
合計	480		338		21		98		5		2		2		6	

※「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

2) 平成16年度C型肝炎ウイルス陽性者年代別定期検査結果報告

年齢	健康指導対象者数 (平成16年4月1日現在の実人数)		受診者数 (平成17年3月31日現在の実人数)		定期検査結果											
	健康指導対象者数		受診者数		健康指導対象者診断名						検査結果					
	健康指導対象者数		受診者数		慢性肝炎		肝硬変		アルーコラー肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の病	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44	2	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49	9	10	3	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
50～54	12	17	1	9	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59	14	48	3	23	1	6	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1
60～64	24	83	4	53	4	21	1	2	0	0	1	0	0	0	1	2
65～69	48	130	8	66	3	16	2	1	1	0	0	1	0	0	0	1
70～74	78	173	9	103	1	21	3	0	0	0	1	0	0	0	3	1
75～79	95	156	17	110	1	24	0	10	1	0	1	0	3	1	0	2
80歳以上	84	138	15	63	2	19	4	4	0	0	1	2	1	0	1	2
計	366	759	55	433	88	216	10	18	2	0	3	2	6	4	1	9
合計	1,125		604		12		304		28		5		10		15	
合計	604		433		12		304		28		5		10		15	

※「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

	健康指導 対象者数(人)	定期検査 受診者数	慢性肝炎	肝硬変	肝臓がん疑い または肝臓がん
B型肝炎ウイルス陽性者 (%)	1,078	480 (100)	98 (20.4)	5 (1.0)	4 (0.83)
C型肝炎ウイルス陽性者 (%)	1,125	604 (100)	304 (50.3)	28 (4.6)	15 (2.48)

(5) 平成7～16年度年代別肝臓がん検診結果

年 齢	一次検診 受診者数 (人)		HBs抗原 陽性者 (人)		HBs抗原 陽性率 (%)		HCV抗体 陽性者 (人)		HCV抗体 陽性率 (%)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	1,952	4,237	85	125	4.35	2.95	32	44	1.64	1.04
45～49歳	2,050	4,639	108	173	5.27	3.73	32	91	1.56	1.96
50～54歳	2,071	5,625	108	203	5.21	3.61	31	148	1.50	2.63
55～59歳	2,354	6,853	77	208	3.27	3.04	65	239	2.76	3.49
60～64歳	4,999	10,344	147	216	2.94	2.09	174	446	3.48	4.31
65～69歳	6,283	10,652	162	217	2.58	2.04	272	493	4.33	4.63
70～74歳	5,561	8,868	102	154	1.83	1.74	277	419	4.98	4.72
75～79歳	2,715	4,605	53	69	1.95	1.50	139	219	5.12	4.76
80歳以上	1,898	3,128	20	53	1.05	1.69	104	136	5.48	4.35
計	29,883	58,951	862	1,418	2.88	2.41	1,126	2,235	3.77	3.79
合 計	88,834		2,280		2.57		3,361		3.78	

(6) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

1) 平成16年度肝臓がん検診発見がんまたはがん疑い

No.	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP
1	72	男	肝臓がん	PEIT	04. 8. 2.	2 個	S15	25×25	腫瘍	有	C	219
2	65	男	腫瘍なし (肝臓がん)	切除	03. 1. 24.	単発	S1	15×15	腫瘍	有)	B	5
3	70	女	腫瘍なし								B	2

2) 平成16年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No.	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP
1	56	男	肝臓がん	RFA	04. 4. 7.	単発	S7/8	23×26	腫瘍	有	B	8
2	78	女	肝臓がん	TAE	04. 5. 19.	単発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	1447
3	80	女	腫瘍なし								C	367
4	75	男	肝臓がん	TAI	05. 1. 6.	3 個	S568	15×15	腫瘍	有	C	80
5	68	男	肝臓がん	切除	04. 9. 13.	単発	S6	30×20	腫瘍	有	C	5
6	72	女	肝臓がん	T/R	04. 10.	2 個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	44
7	82	男	腫瘍なし								C	2
8	62	男	肝臓がん	TAE	03. 4.	不明	不明	不明	腫瘍	無	C	1055
9	79	女	肝臓がん	TAE	04. 1. 8.	単発	S8	40×40	腫瘍	有	C	55
10	79	男	肝臓がん	PEIT	不明	不明	不明	不明	不明	有	B	819
11	65	女	転移性肝臓がん	(原発胃癌)		多発	不明	不明	不明	不明	B	(CEA155)
12	83	男	腫瘍なし								C	3
13	75	男	(肝臓がん) 腫瘍なし (肝臓がん)	切除	00. 12. 5.	単発	S7	75×75	腫瘍	無)	C	7
14	75	女	肝臓がん	TAE	02. 7.	2 個	S7	50×50	腫瘍	有)		
15	76	女	肝臓がん	15年度報告済								
16	81	男	肝臓がん	15年度報告済								
17	76	男	肝臓がん	15年度報告済								

3) 平成7～15年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	71	男	切除	95. 8.	単 発			腫瘍	有	C	
2	63	男	切除	97. 2. 26.	単 発	S8	30×30	腫瘍	有	C	4年6か月後死亡
3	71	男	TAE	97. 7. 16.	2 個	S68	30×30	腫瘍	無	C	再発、5年9か月後死亡
4	63	女	PEIT	97. 12. 3.	単 発	S2	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中
5	59	男	TAE	98. 5.	単 発	S8	20×20	腫瘍	有	B	再発、3年2か月後死亡
6	76	女	TAE	98. 6. 30.	単 発	S8	30×30	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
7	70	男	切除	98. 9. 1.	単 発	S8	40×30	腫瘍	有	C	再発、2年9か月後死亡
8	68	男	MCT	99. 1. 25.	4 個	S2377	27×27	腫瘍	有	C	再発、3年5か月後死亡
9	83	男	TAE	99. 2. 11.	>4 個	S35678	40×30	腫瘍	有	C	11か月後死亡
10	79	男	TAE	99. 6. 9.	単 発	S8		浸潤	有	C	8か月後死亡
11	64	男	切除	00. 2. 8.	2 個	S5/6. 4	75×70	腫瘍	無	C	再発、3年6か月後死亡
12	79	女	TAE	00. 3. 1.	単 発	S6	10×10	腫瘍	有	B	5か月後再発
13	66	男	切除	00. 9. 27.	2 個	S65	15×15	腫瘍	有	B	4年2か月後死亡
14	82	男	TAE	00. 4. 5.	単 発	S4	55×40	腫瘍	有	C	1年2か月後他病死
15	74	女	切除	00. 2. 28.	単 発	S2	32×32	腫瘍	有	C	4年4か月後死亡
16	64	女	TAI	99. 10. 14.	>4 個	S23457	10×10	腫瘍	有	C	5年8か月後死亡
17	75	男	TAE	00. 4. 19.	単 発	S7	30×30	腫瘍	有	C	4年5か月後死亡
18	75	男	TAE	97. 11.	>4 個	S4568	25×25	腫瘍	有	C	4年1か月後他病死
19	86	男	PEIT	00. 8. 18.	単 発	S4	15×15	腫瘍	無	C	2年1か月後再発
20	70	女		00. 7. 2.						C	同月死亡
21	65	男	切除	98. 2. 5.	単 発	S1	90×90	腫瘍	有	B	3年10か月後死亡
22	67	男	切除	01. 11. 19.	単 発	S8	13×13	腫瘍	有	B	3年8か月後再発
23	76	女	T/P	01. 8. 1.	単 発	S7	15×15	腫瘍	有	C	1年8か月後再発
24	66	女	TAE	01. 7. 26.	単 発	S7	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中
25	75	女	T/P	02. 3. 4.	単 発	S5/6	37×31	腫瘍	無	C	5か月後再発
26	73	男	TAE	01. 4. 10.	単 発	S5	20×20	腫瘍	有	C	7か月後死亡
27	76	女	T/P	02. 10. 10.	単 発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2年1か月後他病死
28	79	女	TAE	01. 06. 27.	>4 個	S2457	40×40	腫瘍	有	C	1年10か月後死亡
29	79	女	切除	03. 2. 26.	単 発	S3	30×30	浸潤	有	C	9か月後再発
30	82	女	RFA	03. 5. 26.	単 発	S5	35×35	腫瘍	無	B	8か月後再発
31	78	女	T/R	02. 9. 24.	単 発	S8	40×40	腫瘍	無	C	無再発生存中
32	75	男	切除	03. 6. 3.	単 発	S6	20×20	腫瘍	有	B	無再発生存中
33	76	男	切除	04. 2. 9.	2 個	S28	50×50	腫瘍	有	C	1年後再発
34	76	男	MCT	03. 8. 14.	単 発	S8	25×20	腫瘍	有	C	無再発生存中
35	83	男	PEIT	03. 5. 30.	単 発	S5/6	22×21	腫瘍	無	C	無再発生存中
36	80	男	RFA	04. 8. 3.	>4 個	S13468	30×25	腫瘍	有	C	生存中
37	91	女	NT		>4 個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	生存中
38	74	女	TAE		>4 個			腫瘍	無	C	2年10か月後死亡
39	75	女	TAE	03. 10.	単 発	S8	23×23	腫瘍	有	C	11か月後再発
40	79	男	RFA	04. 3. 15.	単 発	S8	30×20	腫瘍	無	C	無再発生存中

4) 平成7年～15年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	74	女	切除	95. 10. 24.	単 発	S4	55×55	腫瘍	有	C	再発、7年7か月後死亡
2	70	女	TAE	96. 2. 20.	単 発	S8	40×38	腫瘍	無	C	死亡
3	63	女	切除	96. 3. 13.	単 発	S7	30×23	腫瘍	有	C	無再発生存中
4	83	男	TAE	96. 7. 15.	単 発	S4	12×12	腫瘍	無	C	再発、3年9か月後死亡
5	74	女	TAE	96. 8. 29.	>4 個	S5678	35×35	腫瘍	無	C	再発、1年8か月後死亡
6	64	女	TAE	96. 10. 25.	>4 個	S67	67×57	腫瘍	無	B	9か月後死亡
7	72	男	TAE	96. 11. 1.	2 個	S6	20×20	腫瘍	有	—	再発、1年1か月後死亡
8	70	男	PEIT	96. 11. 22.	単 発	S5	25×25	腫瘍	有	C	再発、5年2か月後死亡
9	69	男	PEIT	97. 1. 7.	単 発	S7	10×9	腫瘍	無	C	再発、6年1か月後死亡
10	73	女	TAE	97. 11. 17.	>4 個	S234	80×60	腫瘍	無	C	3か月後死亡
11	61	男	TAE	97. 11. 17.	3 個	S568	15×10	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
12	75	男	TAE	97. 12. 4.	単 発	S7/8	40×32	腫瘍	有	C	7か月後死亡
13	57	男	TAE	98. 3. 3.	単 発	S1	70×50	腫瘍	有	B	1年後死亡
14	80	女	切除	98. 7. 31.	単 発	S5/6	25×25	腫瘍	無	C	9か月後死亡
15	49	男	RES	99. 12. 15.	>4 個	S4568	80×80	浸潤	無	B	4か月後死亡
16	69	男	切除	00. 12. 23.	単 発	S8	50×50	腫瘍	無	—	再発、1年5か月後死亡
17	66	男	TAE	01. 9. 19.	単 発	S6	100×100	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡

## 7. 全国がん検診実績との比較

(単位：人 %)

区 分		平成16年度実績（鳥取県）	平成16年度実績（全国）
胃 が ん 検 診	対 象 者 数(人)	167,900	34,059,605
	受 診 者 数(人)	46,629	4,376,699
	受 診 率(%)	27.8	12.9
	受 診 率 順 位	3 位	—
	要 精 検 者 数(人)	3,104	486,437
	要 精 検 率(%)	10.7	11.1
	精 検 受 診 者 数(人)	2,372	360,618 (410,051)
	精 検 受 診 率(%)	76.4	74.1 ( 84.3)
	がん又はがんの疑いのある者(人)	163	6,439
	が ん 発 見 率(%)	0.35	0.15
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対 象 者 数(人)	122,868	29,373,104
	受 診 者 数(人)	26,333	3,995,021
	受 診 率(%)	21.4	13.6
	受 診 率 順 位	8 位	—
	要 精 検 者 数(人)	97	40,033
	要 精 検 率(%)	0.37	1.00
	精 検 受 診 者 数(人)	78	25,704 ( 32,634)
	精 検 受 診 率(%)	80.4	64.2 ( 81.5)
	がん又はがんの疑いのある者(人)	35	1,960
	が ん 発 見 率(%)	0.13	0.05
肺 が ん 検 診	対 象 者 数(人)	175,873	33,422,775
	受 診 者 数(人)	60,113	7,769,635
	受 診 率(%)	34.2	23.2
	受 診 率 順 位	16位	—
	要 精 検 者 数(人)	1,791	216,573
	要 精 検 率(%)	2.98	2.79
	精 検 受 診 者 数(人)	1,433	152,070 (186,410)
	精 検 受 診 率(%)	80.0	70.2 ( 86.1)
	がん又はがんの疑いのある者(人)	93	3,706
	が ん 発 見 率(%)	0.15	0.05

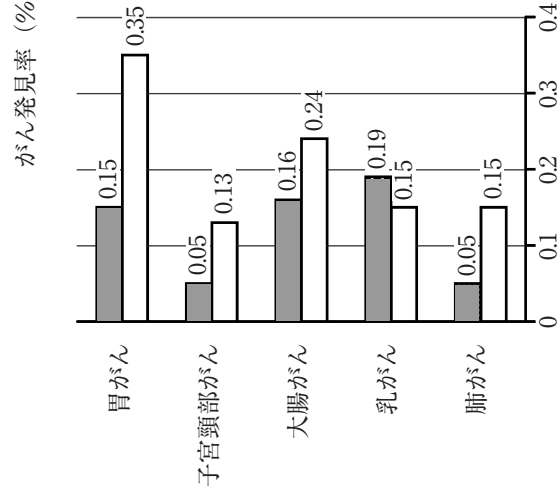
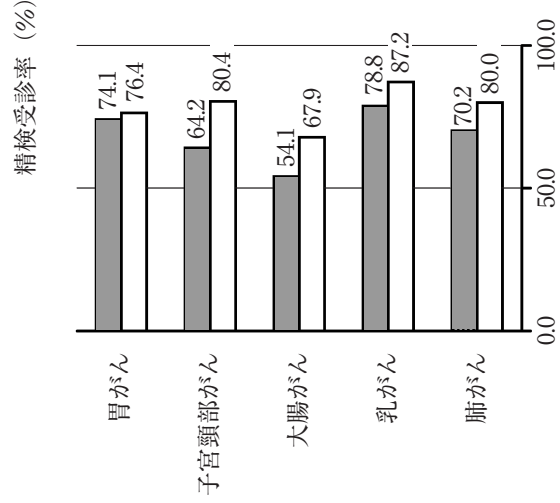
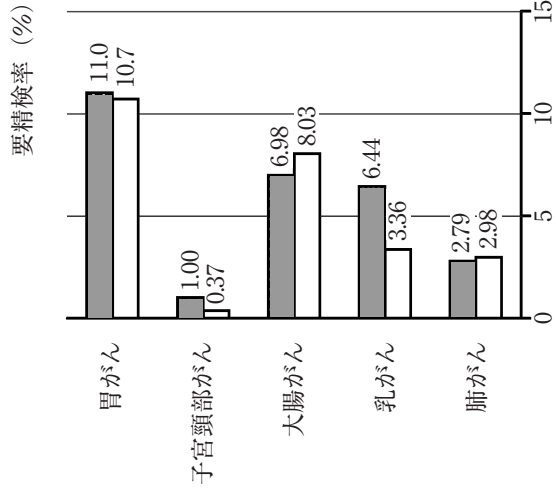
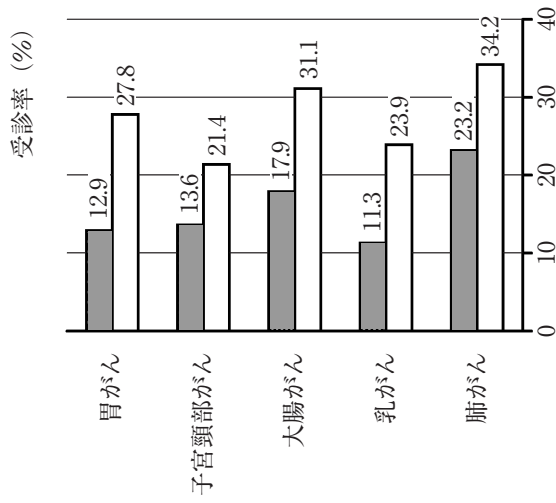
区 分		平成16年度実績（鳥取県）	平成16年度実績（全国）
乳がん検診	対 象 者 数(人)	125,270	23,927,018
	受 診 者 数(人)	29,888	2,698,947
	受 診 率(%)	23.9	11.3
	受 診 率 順 位	2 位	—
	要 精 検 者 数(人)	1,003	173,903
	要 精 検 率(%)	3.36	6.44
	精 検 受 診 者 数(人)	875	137,000 (155,738)
	精 検 受 診 率(%)	87.2	78.8 ( 89.6)
	がん又はがんの疑いのある者(人)	46	5,091
	が ん 発 見 率(%)	0.15	0.19
大腸がん検診	対 象 者 数(人)	174,300	35,928,595
	受 診 者 数(人)	54,170	6,430,450
	受 診 率(%)	31.1	17.9
	受 診 率 順 位	4 位	—
	要 精 検 者 数(人)	4,352	448,555
	要 精 検 率(%)	8.03	6.98
	精 検 受 診 者 数(人)	2,955	242,847 (331,437)
	精 検 受 診 率(%)	67.9	54.1 ( 73.9)
	がん又はがんの疑いのある者(人)	131	9,995
	が ん 発 見 率(%)	0.24	0.16

(出典) 鳥取県数値（受診率順位を除く）＝鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料  
 全国数値及び鳥取県の受診率順位＝地域保健・老人保健事業報告（厚生労働省）

- (注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・老人報告事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。  
 2 全国集計の精検受診者数、受診率の（ ）は、精検結果が未把握の者が含まれた数値です。  
 3 肺がん検診の数値は、喀痰検査のみ受診した者の数値を含まない。



# 老人保健事業健康診査（平成16年度実績）



※精検結果が未把握の者は含めていません

### Ⅲ. 平成17年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

平成17年度がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況

事	業	名	開催日時	場	所	出席者	内	容
胃がん	胃がん検診従事者講習会 及び症例研究会	胃がん検診従事者講習会 及び症例研究会	平成18年2月25日(土) 午後4時～午後6時	倉吉市 倉吉交流プラザ	倉吉市 倉吉交流プラザ	130名	演題：「福岡地区における胃がん検診の現状と問題点—X線検査の役割について—」 講師：福岡大学病院放射線科講師 北川晋二先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 岡田克夫先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 野口直哉先生 西部—1例：米子医療センター 木村 修先生	
子宮がん	子宮がん検診従事者講習会 及び症例検討会	子宮がん検診従事者講習会 及び症例検討会	平成18年2月5日(日) 午後4時～ 午後5時50分	倉吉市 中部医師会館	倉吉市 中部医師会館	49名	演題：「子宮頸部初期病変」 講師：鳥取大学医学部器官制御学外科学講座座生 殖機能医学分野 助手 大石徹郎先生 症例提示4例	
肺がん	肺がん検診従事者講習会 及び症例研究会	肺がん検診従事者講習会 及び症例研究会	平成18年2月18日(土) 午後4時～ 午後6時10分	倉吉市 中部医師会館	倉吉市 中部医師会館	56名	演題：「肺がんの早期診断」 講師：公立学校共済組合近畿中央病院放射線科部長 栗山啓子先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 万木英一先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 吹野俊介先生 西部—2例：鳥取大医 胸部外科 谷口雄司先生	
乳がん	乳がん検診従事者講習会及 び第13回鳥取県検診発見乳 がん症例検討会	乳がん検診従事者講習会及 び第13回鳥取県検診発見乳 がん症例検討会	平成17年7月30日(土) 午後4時～ 午後6時10分	倉吉市 中部医師会館	倉吉市 中部医師会館	88名	演題：「マンモグラフィの石灰化病変に対する診断の現状」 講師：鳥取県立厚生病院外科医長 林 英一先生 症例検討 東部—1例：鳥取市立病院 小寺正人先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 原田真吾先生 西部—1例：米子医療センター 鈴木喜雅先生 西部—1例：博愛病院 村田陽子先生	
大腸がん	大腸がん検診従事者講習会 及び症例研究会	大腸がん検診従事者講習会 及び症例研究会	平成17年8月27日(土) 午後4時～ 午後5時40分	鳥取市 鳥取県健康会館	鳥取市 鳥取県健康会館	120名	演題：「大腸がん最近の話題」 講師：鳥取大学医学部附属病院第2内科講師 八島一夫先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 岡本健志先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 玉井伸幸先生 西部—1例：米子医療センター 木村 修先生	
肝臓がん	肝臓がん検診従事者講習会 及び症例研究会	肝臓がん検診従事者講習会 及び症例研究会	平成18年2月4日(土) 午後4時～午後6時	倉吉市 中部医師会館	倉吉市 中部医師会館	88名	演題「肝細胞癌に対する生体肝移植」 講師：鳥取大学医学部附属病院第1外科講師 廣岡保明先生 症例検討 東部—1例：鳥取市立病院 松木 勉先生 中部—1例：野島病院 満田朱里先生 西部—3例：山陰労災病院 岸本幸廣先生	

# 1. 胃がん検診症例研究会

日 時 平成18年2月25日(土) 午後4時～午後6時

場 所 倉吉交流プラザ

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

## 〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 岡田 克夫

46歳、女性

集検歴：平成15年 胃体部後壁欠損様を指摘

平成16年 胃体部大弯弯入を指摘

経 過：平成15年6月胃集団検診で胃体下部弯入を指摘。前医にて上部消化管内視鏡検査、同部に胃潰瘍を認めた。生検でgroup I、ヘリコバクターピロリ除菌が行われた。平成16年6月胃集団検診で胃体下部弯入を指摘、内視鏡検査再検されるも胃潰瘍として治療される。平成17年6月经過観察目的に上部消化管内視鏡検査施行され進行胃癌の診断となり当院紹介。平成17年7月胃切除術施行。f Type IIc+III T<sub>3</sub> SE 30×30mm N<sub>0</sub>H<sub>0</sub>P<sub>0</sub>M<sub>0</sub>CY<sub>0</sub> Stage II Cur B por<sub>2</sub> ly<sub>1</sub>v<sub>1</sub> sci INF<sub>γ</sub>

検 討：生検で偽陰性となる可能性も念頭に、内視鏡診断を再考すべきであったと思われた。また、平成16年集検の読影では判定4～5とすべきではなかったかと考えられた。

## 〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 野口 直哉

73才、女性

検診歴：平成15年6月 異常なし

平成16年6月 異常なし

平成17年6月 胃角部レリーフ異常

経 過：平成17年6月の検診で異常を指摘され厚生病院受診となった。上部消化管内視鏡をおこない、検診で指摘されたのと同部位、胃角部小湾にIIc型の病変を認めた。

手術結果：胃亜全摘が施行された。病理診断はIIc type (sm) 23×12mm Poorly diff. adenocarcinoma Stage1 pT<sub>1</sub>N<sub>0</sub>M<sub>0</sub>P<sub>0</sub>H<sub>0</sub>であった。

講習会では平成16年、17年の検診フィルムを提示させていただき、つづいて病変指摘後の内視鏡、病院での胃透視を提示させていただいた。

今回の症例では早期胃癌であったが、検診フィルムで病変の存在診断は充分可能であり病変の大きさ、範囲についても読影可能と考えられた。

## 〔西部症例〕

米子医療センター 木村 修

71歳、男性

集検歴：平成15年 異常なし

平成16年10月 異常なし

経 過：平成17年2月頃より、心務部痛を来すようになられ、近医を受診、上部消化管内視鏡検査にて異常を指摘され、4月当科紹介となった。

5月12日腎全摘術、脾臓合併切除術を施行した。

切除標本：胃竈蔭部犬湾を中心に、9.0×9.0cmの巨大な1型腫瘍が認められ、脾臓、横隔膜への浸

潤、高度なリンパ節転移を認めた。

病理組織診断では、胃悪性リンパ腫（T-cell lymphoma）、diffuse type、n(+)（NO. 1, 3, 7, 8a, 10, 11）、CD3(+）、UCHL-1(+）であり、背景粘膜には慢性活動性胃炎、H. pylori陽性であった。また、血液検査にて、HTLV-1〈512、可溶性IL-2レセプター：2,560IU/mlと高値を示した。

検討：平成15、16年の集検フィルムを見直しても、胃富臓部の異常を指摘することはできなかった。胃原発T細胞性リンパ腫は胃原発悪性リンパ腫の約6%と稀であり、悪性度が高く、進展も速いことが考えられ、半年前の集検フィルムで異常を指摘することは不可能であったと考えられた。

## 2. 子宮がん検診症例研究会

日 時 平成18年2月5日（日） 午後4時～午後5時50分

場 所 鳥取県中部医師会館

### 1. 症例検討

鳥取大学医学部器官制御外科学講座生殖機能医学分野助教授 紀川純三先生の進行により、症例4例について症例検討が行われた。

症例1：細胞診による腺異型の判定で腺癌0期を発見し得た事例であった。

症例2：1次検診機関での組織診で高度異形成。精密検査機関では子宮筋腫、子宮頸部異形成の診断で単純子宮全摘術が施行された。本人希望により円錐切除が省略されたが、2次機関での精密検査の重要性が示唆される症例であった。

症例3：4年ぶりにがん検診を受けたところ頸部細胞診classVであり、がん検診の受診間隔について示唆に富む症例であった。

症例4：細胞診での腺異型の判定について再確認するとともに、頸部腺癌の診断の難しさを示す症例であった。

以上、今回の症例検討会では腺癌及び比較的若年者の頸癌症例が増加していることが明らかとなり、今後の検討課題となり得ると思われた。

平成17年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

症例	年齢	検診月日	一次検診機関	一次検診結果	精密検査機関	精密検査結果			治療機関名
						組織診断	進行期分類	TMN分類	
症例1	59歳	H12.09.19	鳥取県保健事業団	class II	鳥取大学医学部附属病院	Adenocarcinoma in situ	0期	pT <sub>is</sub> N <sub>x(o)</sub> M <sub>0</sub>	鳥取大学医学部附属病院
		H13.09.20	鳥取県保健事業団	class II					
		H14.09.18	鳥取県保健事業団	class II					
		H15.09.16	鳥取県保健事業団	class II					
		H16.09.15	鳥取県保健事業団	class IIIa 腺異形成疑					
症例2	39歳	H13.02.05	みやもと産婦人科医院	class II	鳥取市立病院	Squamous cell carcinoma	I b1期	T I b1	鳥取市立病院
		H15.12.15	みやもと産婦人科医院	class II					
		H17.01.21	みやもと産婦人科医院	class IIIa 炎症性変化を伴う軽度異形成					
症例3	41歳	H12.11.04	中曽産科婦人科医院	class II	鳥取大学医学部附属病院	Squamous cell carcinoma (non keratinizing)	I b1期	pT <sub>2a</sub> N <sub>0</sub> M <sub>0</sub>	鳥取大学医学部附属病院
		H16.08.16	中曽産科婦人科医院	Squamous cell carcinoma (non keratinizing)					
症例4	43歳	H15.09.09	母と子の長田産婦人科クリニック	class II	鳥取大学医学部附属病院	Endocervical Adenocarcinoma	I b1期	pT <sub>1b1</sub> N <sub>0</sub> M <sub>0</sub>	鳥取大学医学部附属病院
		H16.07.14	母と子の長田産婦人科クリニック	dysplasia					

### 3. 肺がん検診症例研究会

日 時 平成18年2月18日(土) 午後4時～午後6時10分

場 所 鳥取県中部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

#### 〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 万木 英一

症 例：62歳、女性

平成16年4月肺がん検診の胸部X線写真で右中肺野の小陰影を指摘され、精査のため当院へ紹介受診となった。

胸部X線写真では、右中肺野に直径約8mmの淡い円形陰影が認められた。胸部CTでは、右S6の頭側に胸膜に接する直径8mmの一部すりガラス状陰影(GGO)を伴う円形の腫瘍が認められた。

腫瘍マーカーはCEA、SCCともに正常範囲内であった。

質的診断をつけるためCTガイド下肺生検を試みたが、肋骨直下の病変のため生検は施行できなかった。このため胸腔鏡下肺部分切除術(VATS)を施行した。右S6の頭側に大豆大の腫瘍があり、その胸膜面にわずかな陥凹が認められた。約2cmの辺縁距離をとり肺部分切除術を行った。切除標本の剖面所見は直径約7mmの灰白色の境界不鮮明な腫瘍であった。

病理組織学的には、中程度の核異型を示す癌細胞が肥厚した肺胞隔壁に沿って増殖していた。弾性線維の密集はみられたが、線維芽細胞の増殖はなく野口の分類のType Bと診断された。

術後は、追加切除を行うことなくInformed consentを得て定期的に検査を行いながら経過観察を行っている。

#### 〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 吹野 俊介

症 例：82歳、女性、

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：平成15年、16年の検診では異常なしとされていたが、平成17年の検診で胸部X線写真の異常陰影を指摘され、当院受診となった。胸部X線写真を比較読影すると、平成16年の写真ではわずかに左中肺野に1cm大の淡い陰影を認めた。平成17年では1.2cm大となっていた。胸部CTでは、左S4に血管の引っ張り込みとspiculationを伴う1.2cmの腫瘍を認めた。野口分類DEFに相当するものと判断して手術となった。

手術はVATSにて左上葉部分切除を行い、テレパソにて細気管支肺胞上皮癌、粘液産生で、野口分類Bという診断であった。左上葉切除術、ND1リンパ節郭清を行った。腫瘍は左S4に存在し、1.2cm大、細気管支肺胞上皮癌、mucus carcinoma、野口分類Bとなった。p-T<sub>1</sub>N<sub>0</sub>M<sub>0</sub>、p<sub>0</sub>d<sub>0</sub>e<sub>0</sub>p<sub>0</sub>m<sub>0</sub>(p<sub>0</sub>)、p-Stage IAであった。肺胞構築はほとんど保たれており、一部肺胞虚脱が認められた。肺胞内と肺胞上皮癌細胞内には著明な粘液が認められた。検診胸部X線写真から野口A、Bが発見されることは稀であるが、この粘液の貯留のおかげで、胸部X線写真で腫瘍陰影として認められた。GGOの症例が多数集まってくると、このような症例も出てくる頻度が高くなっていると、特別講演していただいた栗山先生よりのコメントがあった。

まとめ：厚生病院手術例において、画像での肺癌の腫瘍径だけで検討すると、腫瘍径2cm以下の症例の5年生存率は73.3%、2.1～3cmの腫瘍径の症例は54%となり、有意差を認めた(p<



0.05)。今後の肺癌検診でも2 cm以下の小型肺癌を発見することが、肺癌治療の向上につながるものと考えられた。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院胸部外科 谷口雄司

症例1：69歳 女性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：胸部毎年検診を受けるが、異常は指摘されなかった。平成17年7月、検診で胸部X線E1と判定された。平成17年8月当院内科で精査するも、確定診断を得ず。画像上は肺癌を強く疑うため当科紹介となった。

生活歴：喫煙なし

臨床経過：胸部CTで左下葉に辺縁不整の腫瘤を認めた。胸腔鏡下左肺下葉切除術＋リンパ節郭清を施行した。腫瘍径32×25×11mmの中分化腺癌、pT<sub>2</sub>N<sub>0</sub>M<sub>0</sub>、IBと診断された。

症例2：52歳 女性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：胸部毎年検診を受けるが、異常は指摘されなかった。平成17年11月、検診で胸部X線要精査と判定され、平成17年11月当科紹介となった。

生活歴：喫煙なし

臨床経過：胸部CTで左下葉に辺縁不整の腫瘤を認めた。胸腔鏡下左肺部分切除術による術中迅速病理診断にて肺腺癌と診断され、胸腔鏡下左肺下葉切除術＋リンパ節郭清を施行した。腫瘍径12×9×9mmの一部micropapillary patternを含む中分化腺癌。pT<sub>1</sub>N<sub>2</sub>M<sub>0</sub>、ⅢAと診断された。

検 討：症例1は、平成14年度から陰影はあったが、以前より存在するためC判定とされていた。幸いslow growingであったため、根治手術が可能であったが、積極的E判定が望まれる症例であった。

症例2は、retrospectiveにも指摘困難な陰影であった。速やかな精密機関受診と胸部CTにより肺癌を疑い、手術可能であった。小径であったが、著明なリンパ管浸潤と縦隔リンパ節転移を伴うmicropapillary patternを含む中分化腺癌であり、注意を要する症例であった。

## 4. 乳がん検診症例研究会

日 時 平成17年7月30日(土) 午後4時～午後6時10分

場 所 鳥取県中部医師会館

### 〔東部症例〕

提出者：鳥取市立病院 小寺 正人

手術半年後に肝転移をきたした検診発見乳癌の1例

69才、女性、検診発見(左乳房腫瘍を自覚)。

左C領域に4.2×3.8cm弾性硬の腫瘍を触知。皮膚・胸筋固定なし。腋窩、鎖骨下、鎖骨上窩リンパ節触知せず。MMG：カテゴリー1/5、エコーで36×35×21mm、irregular shape, low echoic homogeneous SOLを認めた。穿刺吸引細胞診で悪性(papillo-tubular carcinoma)、胸腹部CT、骨シンチで遠隔転移なし。根治切除予定となった。

術前診断はT<sub>2</sub>N<sub>0</sub>M<sub>0</sub> 病期IIA、Bt+Ax(LevelIII)を行った。

最終診断は、Invasive ductal carcinoma, papillo-tubular carcinoma (comedo carcinoma)、f、EIC(-)、n<sub>0</sub>(0/15)、ER(-)、PgR(-)、HER-2スコア：0。

術後補助療法として5'-DFUR 600mg/dayを行った。半年後肝転移をきたした。

1st lineとしてタキソール60mg/m<sup>2</sup>(weekly)を行いPD。2nd lineとしてタキソテール60mg/m<sup>2</sup>+ゼロラダ1800mg/bodyを行いPD。3rd lineとしてFEC75 4クールを行いPR、更に6クール追加しPD。4th lineとしてナベルピン20mg/m<sup>2</sup>(2週投与1週休薬)施行中である。

検診発見症例の中に、自覚症状があれば外来発見と同様、進行症例が散見される。マンモグラフィ併用検診を啓発し、より早期に発見する努力する必要がある。

### 〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 原田 真吾

乳癌検診にて発見されなかった症例

63歳、女性。3年前より他県の病院にて乳癌検診(マンモグラフィ)にてフォローアップされていたが、平成16年9月、精査勧められ当院受診となった。受診時、左乳房D領域にφ2cmの硬結を触知し、乳頭陥凹(+)、乳頭より血性分泌を認めた。腋窩リンパ節触知しなかった。マンモグラフィにて、左乳房D領域にスピキュラを伴う辺縁不整な腫瘍影、ならびに微細石灰化を認め、カテゴリー5と診断した。左乳癌の診断にて、乳房切除術(Bt+Ax)施行、病理組織学的検査にてInvasive ductal carcinoma, scirrhous type (Pagetoid)との診断であった。ホルモンレセプターはER(-)、PgR(-)、HER2(3+)であった。Level I(6/11)、Level II(2/2)とリンパ節転移を認めた。術後補助療法としてCEFを3クール施行後、経過観察中にCEAの上昇を認めた。精査にて肝臓に転移巣を認めたため、Weekly TaxolおよびHerceptinの投与を行ったところ、肝転移巣の縮小、およびCEAの低下を認めた。現在外来にて治療を継続中である。乳癌検診を受診していたにもかかわらず、発見時すでに進行していた症例を提示した。

### 〔西部症例〕

提出者：米子医療センター 鈴木 喜雅

乳がん検診(視触診)にて発見された非浸潤性乳管癌の一例

69歳、女性。

平成15年11月乳がん検診を受診し左乳房腫瘍を指摘され、11月19日当科受診。超音波検査、マンモグラフィ検査にて左C領域に10mmの腫瘍を認めた。穿刺吸引細胞診にて陽性と診断された。治療は

左乳腺部分切除+レベルⅡリンパ節郭清を施行した。病理診断は非浸潤性乳管癌、T<sub>1</sub>N<sub>0</sub>M<sub>0</sub>、stageI、ER+、PgR+であった。術後に温存乳房に対し放射線治療を行い、アリミデックス内服治療を継続している。

〔西部症例〕

提出者：博愛病院 村 田 陽 子

マンモグラフィ検診で発見された非触知乳がんの1例

症 例：60才、女性。

現病歴：はじめてMMG検診を受けた所、右乳房の局所的非対称性陰影（FAD）—カテゴリー3と診断され、精査を受けた。超音波検査で病変を指摘できず、3ヶ月後、精査目的で紹介された。乳房には硬結・腫瘤を触れず。

MMG所見：右C領域にやや高濃度の不整な陰影あり。カテゴリー4。

US所見：同部に型8mmの不整なlow echoic lesionあり。前方境界線を破る所見あり、カテゴリー4。

USガイド下穿刺吸引細胞診：乳頭腺管癌。

MRでも同部に孤立性の早期濃染像を認めた。CTボリュームレンダリング法を併用してマーキングし、乳房温存治療を行った。

病理組織検査：1×0.8cmの乳頭腺管癌。ER/PgR陽性。リンパ節転移なし。

本症例は、小型ながらも浸潤癌であり、非触知の段階で発見できたことは、MMG検診の意義が大きかったと言える。

また、精密検査の重要性も一段と高まっており、適切な検査法の習熟が望まれる。

## 5. 大腸がん検診症例研究会

日 時 平成17年 8月27日 (土) 午後 4時～午後 5時40分

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

### 〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 岡 本 健 志

症 例：75歳、男性

現病歴：平成 9 年から平成15年まで毎年大腸がん検診（2 日法）を受けていたが、便潜血はすべて陰性であった。平成16年 2 月の大腸がん検診（1 日 2 個法）で便潜血陽性を指摘され当院で大腸内視鏡検査が施行され、回盲部に進行癌が認められた。注腸造影では同部位に30mm 大の腫瘤とその中央部にバリウムのたまりが描出された。当院で手術が施行された。

手術所見：右半結腸切除術が施行された。2 型、30×26mm

病理組織所見：高分化型腺癌、SS、P(0)、H(0)、M(-)、N(-)、stage II、CurA

検 討：これまで大腸がん検診に 2 日法が多く実施されてきたが、平成15年度より鳥取県では 1 日 2 個法が導入された。患者は導入された年に便潜血陽性を指摘され、精査の結果大腸癌を診断された。1 日 2 個法については①採便の煩わしさが軽減される、②便秘の人にとっては楽になる、③冷蔵庫などの保存の必要がなくなる、④検診受診者の増加が予想されるなどの利点が考えられ、今後の便潜血検査による大腸がん検診の精度向上を図る簡便で有用な方法となる可能性が示唆された。

### 〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 玉 井 伸 幸

症 例：34歳、女性

1 年前より血便を認めていた。

平成16年 3 月29日、検診にて便潜血陽性指摘。4 月19日、当院内科受診。5 月10日、精査目的に入院。5 月24日、直腸Rs (肛門縁より18cm) 2 型腫瘍認め、低位前方切除術を施行。病理組織はModerately diff. adeno ca.、se、ow(-)、aw(-)、inf α、ly(3+)、v(+).

Stage III Bであった。現在リンパ節転移をきたし、化学療法を施行中である。

### 〔西部症例〕

提出者：米子医療センター 木 村 修

症 例：51歳、女性

現病歴：平成17年 5 月、肛門出血を来し近医を受診、精査の結果、直腸癌を疑われ、手術目的にて当科紹介、入院となった。

検査所見：注腸造影、大腸内視鏡検査において、直腸歯状線の約 1 cm口側から始まる広範な表面結節状、平坦隆起型の病変が下部直腸 (Rb) に認められ、その口側端では一部に陥凹性の病変も認められた。生検組織診断では、陥凹性病変部は中分化型腺癌、平坦隆起性病変は管状絨毛状腺腫であった。

手術所見：歯状線より内輪筋、外縦筋を切離、超低位前方切除術（内括約筋重全摘術）を施行し、横行結腸人工肛門を造設した。

病巣の大きさは80×80mmで、2 型十 II a 型の病変であり、病理組織所見では、2 型部で中分化型腺癌、深遠度mp、ly<sub>2</sub>、v<sub>0</sub>、n<sub>0</sub>、stageI、II a 部の多くは管状絨毛状腺腫であっ

た。

検 討：本症例は、検診未受診例であり、下部直腸に広範な平坦隆起型病変（LST）が認められ、その口側部に2型病変を伴った症例でありました。近年、このような症例を対象に超低位前方切除術が盛んに施行されつつあります。

## 6. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 平成18年2月4日(土) 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県中部医師会館

東・中・西部地区より症例を提示し、症例検討を行った。

### 〔東部症例〕

提出者：鳥取市立病院 松 木 勉

症 例：78歳、女性

主 訴：肝腫瘍

既往歴：高血圧症、慢性C型肝炎

現病歴：平成8年より近医で高血圧、慢性C型肝炎で経過を見られていたが、症状はなく、検査値にも異常はなかった。平成16年4月肝癌検診を受けAFP高値を指摘、超音波検査で肝S5に腫瘤を認められ精査のために紹介となった。

前医での検査成績：GOT 22 IU/L、GPT 16 IU/L、TP 6.9 g/dl、T.Bil 0.5 mg/dl、Plt 22.5 万/ $\mu$ l、AFP 859.6 ng/ml

入院時検査成績：GOT 31 IU/L、GPT 30 IU/L、TP 7.5 g/dl、Alb 4.6 g/dl、T.Bil 0.6 mg/dl  
AFP 1833.2 ng/ml、PIVKA.EC 5261 mAU/ML、ICG15 13%

画像診断のまとめ：超音波検査：S5に径2.5cmのハローをもつ等エコー腫瘤

ダイナミックCT：動脈相低吸収、内脈相辺縁濃染、平衡相低吸収、いずれの相でも一部は濃染なし

CTAP：欠損

CTA：強く濃染

DSA：A5、6末梢に腫瘍濃染

以上より、C型肝炎に合併した高分化肝癌を含む肝細胞癌と診断、臨床病期I

治療：平成16年5月19日、肝動脈A5、5/8の血管塞栓術を施行。

経過：血管塞栓術後腫瘍部に強いリピオドールの集積を認め、症状もなく退院。

検査値：平成16/5/13 TAE 6/29 12/7 17/6/7 18/1/17

AFP 1833.2 39.2 7.4 6.1 8.4

PIVKA.EC 5261 20 15 13 25

考 案：C型肝炎の経過中に肝がん検診でAFP高値と超音波検査で肝S5に腫瘤を指摘された。

肝予備能に問題はなかったが高齢でもあり、血管塞栓術を行った。高分化な部分も考えられ塞栓効果に心配も残ったが、腫瘍マーカーは正常範囲に低下し、1年半立っても良好に経過している。血管塞栓術が有効であったと考えられる。

### 〔中部症例〕

提出者：野島病院 満 田 朱 里

症 例：55歳、男性

主 訴：右下腹部痛～背部痛

既往歴：21歳、胃潰瘍にて胃2/3切除

家族歴：特記すべきことなし

生活歴：ビール350ml/日、喫煙10本/日

現病歴：21歳の手術時の輸血にて輸血後肝炎発症し、一年間治療を受けた。平成14年11月17日夜よ

り右下腹部痛～背部痛出現し、11月20日近医受診。尿管結石疑われ鎮痛剤処方される。11月21日当院泌尿器科にて結石否定され当科紹介入院となる。

入院時現症：右腹部やや膨隆、硬。右下腹部に圧痛あり。正中に手術創あり。

入院時検査所見：T.Bil 0.6mg/dl、AST 19IU/l、ALT 30IU/l、ALP 316IU/l、 $\gamma$ -GTP 60IU/l、TP 8.0g/dl、Alb 4.3g/dl、ChE 93IU/l、Plt 17.3万/ $\mu$ l、PT 75%、ICG 4.4%、AFP 2.3ng/ml、PIVKA II 65439mAU/ml、HCVAb(+)

画像検査：腹部超音波検査；肝右葉～S4にかけてモザイク状の径15cmの巨大なtumorあり

Dynamic CT；肝右葉～S4にかけて早期相でhigh，晚期相でlowとなる巨大なtumorあり  
DSA；同部にtumor stainあり。

CTA；同部にtumor stainあり。CTAP；同部にdefectあり

診 断：C型慢性肝炎に合併した肝細胞癌、Stage II (T<sub>2</sub>, N<sub>0</sub>, M<sub>0</sub>)、肝障害度A

治療経過：腫瘍が巨大であり非癌部の肝左葉の体積が小さいことから、手術不適応と判断した。平成14年12月5日に右肝動脈後区域枝より、12月13日に前区域枝より2回にわけ経カテーテル的肝動脈塞栓術(TAE)を行った。その4ヶ月後にはリピオドールのwash outおよび左葉に肝内転移あり、平成15年4月7日にTAEおよび経皮的エタノール注入法(PEIT)を行った。その後も主病巣および両葉の肝内転移に対し、7月17日、10月17日とTAEおよびPEITを繰り返した。その後さらに腫瘍の増大速度増したため、平成15年12月24日肝動注リザーバーを留置した。5-FU動注(500mg/day、5投2休×2週間その後2週間休薬)+IFN $\alpha$ (600万単位/回、週3回筋注)併用療法を2クール行った。全身倦怠感強く、IFN単独に変更し2週間、その後IFNは中止し、5-FU動注(1,250mg/回、週1回)を続けた。経過中、左葉に出現した腫瘍が急激に増大し右葉の主病巣より巨大化し、左門脈腫瘍塞栓も認めた。5-FU動注を行いながらリザーバーよりリピオドールTAEを計4回繰り返したが、治療追いつかず、平成17年2月25日を最終とした。発症から2年7ヶ月で永眠された。

考 察：本症例では肝機能正常であり、非癌部は肝硬変に至っていなかった。C型慢性肝疾患では肝機能が正常であっても腹部超音波検査やCT検査など画像での定期フォローが重要である。また本症例では経過中、AFPは腫瘍マーカーとして有用でなかった。肝癌検診においてPIVKA IIの測定はいかがなものだろうか。この症例ではHCV RNA量が0.5未満と低ウイルス量であり(HCV RNA定性陽性)、検診にて早期にHCV陽性が判明していれば、IFN治療によりC型肝炎が治癒し肝癌発生が予防できた症例であったかもしれない。

#### 〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 岸 本 幸 廣

腹部エコーでhump signを呈し、肝腫瘍が疑われた3症例

はじめに：“hump”とは「こぶ」の意味で、肝表面に限局性の目立った隆起や突出がある場合にhump sign陽性と判断し、腹部USでは腫瘍(特に肝細胞癌)の存在を示唆するサインである。今回、腹部USでhump signを呈したため、肝腫瘍が疑われた3症例を呈示した。

症例1：60歳代、男性。

主 訴：肝腫瘍の精査目的。

既往歴：C型慢性肝炎で平成6年5月より通院中。平成14年に肝S1の肝細胞癌で手術を受けた。

平成16年3月に肝S3の肝細胞癌でTAE+PEITを受けた。

現病歴：平成17年4月の腹部US、CT検査で肝S3とS7に肝細胞癌の再発を疑われ、精査目的で入院

した。現症では、腹部の心窩部から臍部までと右季肋部に手術瘢痕がある。

検査成績：AFPは610ng/ml、AFP-L3は18.3%。腹部US上、肝S3にhump signを伴った25mm大のやや低エコー腫瘤認め、カラードプラーで血流はなかった。腹部血管造影及びCT-A、CT-APで肝S3に15mm大の肝細胞癌を認めた。しかし、腹部USで指摘した腫瘤は同部とは異なり、S3の肝表面が手術瘢痕の癒着によると考えられる突出した部位として描出されたが、腫瘤所見、悪性所見は認めなかった。

症例2：50歳代、男性。

主訴：肝腫瘤の精査。既往歴として10年前に胃癌で手術を受けている。その時に、C型慢性肝炎を指摘され、IFN治療によってSVRとなった。

現病歴：平成17年12月13日に受けた人間ドックの腹部USで肝左葉にhump signを伴う腫瘤を指摘された。自覚症状はなし。現症では、腹部正中に心窩部から臍部までの手術瘢痕を認めた検査成績では、HCV-RNA定性は陰性、AFP、PIVKA-IIは正常値、肝機能にも異常所見は認められなかった。腹部US上、肝左葉のS2にhump signを伴う20mm大のやや低エコー腫瘤を認めた。しかし、Dynamic CTでは同部に腫瘤はなく、手術瘢痕の癒着によると考えられる肝表面の突出所見が認められた。

症例3：60歳代、男性。

主訴：肝腫瘤精査。

既往歴：39歳時に僧帽弁交連切開術、輸血あり。54歳時に十二指腸潰瘍穿孔で手術し、この時C型慢性肝炎を指摘された。57歳時に僧帽弁の人工弁置換術を受け、以後ワーファリンを服用中。

現病歴：人工弁置換術後近医でfollow-upされていたが、平成12年8月に腹部USで肝左葉に腫瘤を指摘されて紹介となった。現症では、前胸部正中から心窩部を経て臍部まで手術瘢痕あり。血液生化学検査では、HCV-RNAは陽性で、GOT 114、GPT 135、AFP 10であった。腹部USでは肝S4の門脈臍部の腹側にhump signを伴う25mm大の低エコー腫瘤を認めた。しかし、腹部CTでは同部に腫瘤は認められず、手術瘢痕の癒着によると考えられる肝表面の突出所見のみが認められた。その後も定期的にfollow-upされていたが、それまで正常値であったAFP値が平成17年3月23日に573ng/mlと急に上昇した。その時の腹部USで、以前に指摘したhump signを伴う部位に近接した肝左葉最外側区に20mm大のhump signを伴う低エコー腫瘤を認め、同部のカラードプラーでは豊富な血流及び拍動波をみた。その低エコー部位は腹部血管造影およびCT-A、CT-APで肝細胞癌と診断された。

考察及びまとめ：①腹部正中の心窩部から臍部までの手術瘢痕を有する3人の患者で、腹部US上hump signを呈した、肝腫瘍疑いの症例を報告した。②手術瘢痕によると考えられる肝臓表面と腹壁との癒着部位が、腹部US上hump sign様所見を呈するため、肝悪性腫瘍と診断される可能性があり、注意を要する。

共同研究者：西向荣治、向山智之、神戸貴雅、謝花典子、古城治彦、川崎寛中



## 7. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数
胃がん	16	36	623	4	12	104	27	3,731	628	47	3,779	1,355
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺がん	4	17	81	12	61	107	4	14	59	20	92	247
乳がん	2	12	77	1	4	19	1	5	33	4	21	129
大腸がん	10	13	390	5	13	125	25	195	626	40	221	1,141
肝臓がん	3	5	115	4	5	102	4	8	62	11	18	279
合 計	35回			26回			61回			122回		

## Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、がん検診の有効性向上のため、精度管理上、各がん検診精密検査医療機関登録の登録基準について、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が次のとおり改正され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857-27-5566）へお問い合わせ下されれば幸いです。

### 記

#### 1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に取り扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

#### 2. 次回の更新時期

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	H18. 4. 1～H21. 3. 31	H20年度中	H18. 4. 1～H21. 3. 31
子宮がん検診精密検査	H18. 4. 1～H21. 3. 31	H20年度中	H18. 4. 1～H21. 3. 31
肺がん検診精密検査	H17. 4. 1～H20. 3. 31	H19年度中	H17. 4. 1～H20. 3. 31
乳がん検診精密検査	H17. 4. 1～H20. 3. 31	H19年度中	H17. 4. 1～H20. 3. 31
大腸がん検診精密検査 (注腸X線)	H17. 4. 1～H20. 3. 31	H19年度中	H17. 4. 1～H20. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	H16. 4. 1～H19. 3. 31	H18年度中	H16. 4. 1～H19. 3. 31
肺がん一次検診	H17. 4. 1～H20. 3. 31	H19年度中	
乳がん一次検診	H18. 4. 1～H21. 3. 31	H20年度中	H18. 4. 1～H21. 3. 31

## 鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間50例以上あること。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

### (別記) 対象となる講習会等

講 習 会 等 の 区 分	開 催 頻 度	点 数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 6回/年 西部 2回/年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	3点
胃疾患研究会	東部 11回/年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	3点
消化器病研究会	中部 6回/年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	3点
消化管研究会	西部 22回/年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	3点
消化器内視鏡学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	3点
消化器病学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	3点
消化器集団検診学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	3点

## 鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコピーに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び 子宮がん検診症例検討会	全県 1回/年

## 鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつBF下細胞診が可能であること。
- 3 精検のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に1回以上受講していること。
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

## 鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。  
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。  
 なお、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。  
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

### （別記）対象となる講習会等

講 習 会 等 の 区 分	開 催 頻 度	点 数
乳がん検診従事者講習会及び 鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

### [附則2]

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

## 鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できるか又はS状結腸内視鏡検査及び注腸エックス線検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
  - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
  - (2) エックス線管は小焦点であること。(小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい)。
  - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

### (別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器病学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点

## 鳥取県大腸がん検診注腸エックス線検査医療機関登録基準

- 1 次の基準にあうエックス線撮影装置で注腸エックス線検査が実施できること。
  - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
  - (2) エックス線管は小焦点であること。(小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい)。
  - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 2 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 3 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 8 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

### (別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器病学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点

## 鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
  - 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
  - 3 精密検査として、少なくとも血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン（AFP）検査及びHCV-RNA検査（アンプリコア定性法）が実施できること。
  - 4 次の基準にあう超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師が対応できること。
    - (1) 走査方式は、電子コンベックス方式が可能であること。
    - (2) プローブは、128素子以上の高密度多素子プローブであること。
    - (3) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
    - (4) ポラロイド撮影装置、プリンター、マルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
    - (5) 観察用モニターは、9インチ以上であること。
- \*上記基準に合致しなくても本委員会が承認した装置であればよい。（承認装置は別紙を参照）
- 5 腹部超音波検査の臨床例が年間200例以上あること。
  - 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等の受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肝臓がん検診従事者講習会 及び症例検討会	全県 1回/年	5点
山陰肝・胆・膵研究会	全県 1回/年	2点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回/年	2点
腹部画像診断研究会	中部 6回/年	2点
中部肝疾患セミナー	中部 2回/年	2点
肝・胆・膵研究会	西部 6回/年	2点
消化器超音波研究会	西部 4回/年	2点
西部腹部超音波研究会	西部 2回/年	2点
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回/年	3点

（注） 上記以外の講習会等については、評価委員会及び専門委員会においてその都度協議することとする。



## 鳥取県乳がん医療機関検診一次検診医登録基準

- 1 登録資格は医師とし、専攻科は問わない。
- 2 乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に12点以上取得していること。ただし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見がん症例検討会には、必ず1回は出席していること。
- 3 新規登録の場合は、次のいずれかを受講すること。
  - (1) 原則として健対協の主催する一次検診医講習会を受講すること。  
 なお、この講習会は、乳がん及び乳がん検診についての一般的知識、特に視診及び触診に重点をおいた診断法、触診の実技の習得を目的とし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会に引き続いて年1回開催するものである。
  - (2) (1)の講習会を受ける事ができなかった場合は、部会等の長が指名した部会及び委員会の医師系委員から(1)に準じた指導を受けること。この場合、指導した医師が、一次検診医として十分能力が得られたと認定した時点をもって終了する。
- 4 上記2、3にかかわらず、次に該当する場合は、登録できものとする。
  - (1) 日本乳癌学会認定の専門医、認定医
  - (2) 日本乳癌学会又は日本乳癌検診学会の役員

(別記) 対象となる講習会等

講 習 会 等 の 区 分	開 催 頻 度	点 数
乳がん検診従事者講習会及び 鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

## あ と が き

検診事業の運営上、重要な一面を占める精度管理については、成人病検診管理指導協議会の各部会と鳥取県健康対策協議会の各検診対策専門委員会との合同会議で検討を重ね一層の向上に努めております。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第12報です。

この報告書は単年度のがん検診の詳細な全体像も一覽いただけるものと考えます。この点においても参考にして戴ければ幸いです。

ただ、がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますので、ご承知下さい。

編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。厚く御礼申し上げます。

最後に、発刊に際し、県医師会長岡本公男先生に御指導を戴きました。また、県医師会事務局の岩垣陽子さん、田中貴裕さんには何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。

皆様に心から御礼申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理 事 宮 崎 博 実